

令和 4 年度

理学療法科 シラバス

こころ医療福祉専門学校
(学校法人 岩永学園)

理学療法科 PT20A, PT21A, PT22A

分野	教育内容	特記	必修選択	授 業 科 目	区分	単位	科目	1年次		2年次		3年次	
						数		前	後	前	後	前	後
基礎	科学的思考の基盤 人間と生活情報リテラシー 管理情報と経営情報と人間 情報と社会		必修	コンピュータ演習	演習	2	30	30					
			必修	医学英語	講義	1	30		30				
			必修	統計学・研究法	講義	2	30				30		
			必修	人間発達学	講義	2	30	30					
			必修	トレーニング論Ⅰ	実技	2	30			30			
			必修	トレーニング論Ⅱ	実技	2	30				30		
			必修	障害者スポーツ概論Ⅰ	実技	1	30	30					
			必修	障害者スポーツ概論Ⅱ	実技	1	30		30				
			必修	生活環境論	講義	1	30	30					
専門基礎Ⅰ	人体の構造と機能 及び心身の発達		必修	解剖・生理Ⅰ(骨・筋)	講義	2	60	60					
			必修	解剖・生理Ⅰ演習(骨・筋)	演習	1	60	60					
			必修	解剖・生理Ⅱ(神経・感覚器)	講義	2	60	60					
			必修	解剖・生理Ⅱ演習(神経・感覚器)	演習	1	60	60					
			必修	解剖・生理Ⅲ(内臓諸器官)	講義	2	60		60				
			必修	解剖・生理Ⅲ演習(内臓諸器官)	演習	1	60		60				
			必修	運動学Ⅰ	講義	1	30		30				
			必修	運動学Ⅱ	講義	2	30			30			
専門基礎Ⅱ	疾病と傷害の 成り立ち及び 回復過程の促進		必修	生化学と栄養	講義	1	30		30				
			必修	臨床心理学	講義	1	30						30
			必修	精神医学	講義	1	30						30
			必修	整形外科学	講義	2	30			30			
			必修	神経内科学	講義	2	30			30			
			必修	治療技術(実技)	実技	2	60				60		
			必修	頸損・脊損	講義	1	30			30			
			必修	救急救命医学・画像診断学	演習	2	30				30		
			必修	医学概論	講義	2	30			30			
専門基礎Ⅲ	保健医療福祉と リハビリテーションの理念		必修	リハビリテーション医学概論	講義	2	30	30					
			必修	チーム連携	講義	2	30				30		
専門Ⅰ	基礎理学療法学		必修	理学療法概論	講義	2	30	30					
			必修	日常生活動作学	講義	2	30		30				
			必修	病態運動学	講義	2	30				30		
Ⅱ 門 専	理学療法管理学		必修	理学療法管理学	講義	2	30				30		
専門Ⅲ	理学療法評価学		必修	検査・測定法Ⅰ(関節)	実技	1	60		60				
			必修	検査・測定法Ⅱ(筋)	実技	1	60		60				
			必修	検査・測定法Ⅲ(神経)	実技	1	60			60			
			必修	検査・測定法Ⅳ(動作分析)	演習	1	60			60			
			必修	検査測定演習(認定実技試験)	実技	1	30		30				
			必修	理学療法総合演習(認定実技試験)	実技	1	30				30		
			必修	理学療法総合評価学(画像・評価学)	演習	1	30						30
専門Ⅳ	理学療法治療学		必修	物理療法学	講義	1	30			30			
			必修	物理療法学演習	演習	1	30			30			
			必修	義肢装具学Ⅰ	講義	1	30			30			
			必修	義肢装具学Ⅱ	講義	1	30				30		
			必修	運動器理学療法学	講義	2	30				30		
			必修	運動器理学療法学演習	演習	1	30						30
			必修	神経障害理学療法学	講義	1	30				30		
			必修	神経障害理学療法学演習	演習	1	30						30
			必修	内部障害理学療法学	講義	1	30				30		
			必修	小児理学療法学	講義	1	30			30			
			必修	内部障害理学療法学演習	演習	1	30						30
			必修	総合理学療法Ⅰ	講義	4	120						120
			必修	総合理学療法Ⅱ	講義	4	120						120
専門Ⅴ	地域理学療法学		必修	地域リハビリテーション	講義	1	30	30					
			必修	地域包括ケア	講義	1	30		30				
			必修	地域イノベーション論	演習	1	30			30			
専門Ⅵ	臨床実習		必修	臨床実習Ⅰ(1週)	実習	1	45	45					
			必修	臨床実習Ⅱ(3週)	実習	3	135		135				
			必修	臨床実習Ⅲ(8週)	実習	8	360				360		
			必修	臨床実習Ⅳ(10週)	実習	10	450					450	

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床心理学 ）

学科名 理学療法 科

学年 3 年

1 授業の内容

人の心の仕組み、ストレスを感じた際の心の動き、心理学の歴史、人間の発達について等を学んでいきます。

2 到達目標

心理学の基礎知識の獲得，定着（国家試験に向けて），患者さんとのコミュニケーションについて理解を深める。

3 授業の方法

講義を中心に小テストや動画を用いた学習を実施します。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

まとめプリントを渡すので，その復習を行ってください。

7 使用教材，教具

よくわかる臨床心理学 改定新版/下山晴彦編 ミネルヴァ書房

8 学生へのメッセージ

心理学はとても奥深い学問です。ぜひ興味をもって積極的に学んでください。一緒に頑張りましょう。

9 教員氏名（ 田中 努 ）

所 属 （ ころろ医療福祉専門学校 理学療法科 ）

実務経験の詳細（ 病院にて理学療法士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床心理学 ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	面接の基本的技法
3	防衛機制(反動形成, 合理化, 投影など)
4	防衛機制(打消し, 知性化, 逃避など)
5	防衛機制 まとめ
6	心理療法について
7	心理療法の技法について
8	行動療法について
9	心理療法 まとめ
10	心理検査について
11	心理検査の実際
12	Erikson のライフサイクル論
13	臨床心理学の国家試験対策
14	まとめ
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 精神医学 ）

学科名 理学療法科

学年 3年

1 授業の内容

本講では、精神医学的問題を抱える人への援助についての基礎的知識を理解することを目的とする。総論として、精神医学の歴史、精神保健福祉制度、精神症状の評価法及び検査法について学ぶ。各論として、主要な精神障害の病態、原因、治療に関する知識を習得する。

2 到達目標

各授業でとりあげる精神障害について、具体的なイメージを持ちながら説明することができる。またその理解を基に、医療従事者として精神医学的問題をもつ人と関わる際に注意すべき点をあげることができる。

3 授業の方法

PC プロジェクタを使用したパワーポイントによる講義の他、講義内容に関連する映像資料を使用して実施する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

授業態度、積極性も加味して総合的に評価します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業で配付している資料に関する復習をすることにより知識の定着を図ること。

7 使用教材、教具

上野武治編「標準理学療法学・作業療法学 精神医学（第4版）」医学書院

8 学生へのメッセージ

みなさんは「精神障害」という言葉からどのようなことを思い浮かべるでしょうか。なかなか想像がつかない部分が多いのではないのでしょうか。講義ではできるだけ具体的なイメージを持てるよう工夫していきたいと思います。この講義を通して精神障害への理解が深まり、対人援助職として働く際の一助となることを願っています。

9 教員氏名（ 応戸 絵奈、田中 努 ）

所 属（ 応戸：医療法人カメリア大村共立病院、田中：こころ医療福祉専門学校 ）

実務経験の詳細（ 両名とも病院にて臨床心理士または理学療法士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 精神医学 ）

回数	授業内容
1	精神医学とはー精神医学の歴史，リハビリテーション科における精神医学
2	精神科保健医療と福祉・精神症状の評価
3	神経症性障害・心身症
4	生理的障害および身体的要因に関連した障害
5	気分（感情）障害（1）
6	気分（感情）障害（2）
7	統合失調症およびその関連障害（1）ー統合失調症の特徴
8	統合失調症およびその関連障害（2）ー治療と援助
9	器質性精神障害（1）ー認知症
10	アルコール関連障害・薬物依存による精神障害
11	てんかん
12	高次脳機能障害
13	ライフサイクルにおける精神医学（1）ー小児期・青年期
14	ライフサイクルにおける精神医学（2）ー成人期・老年期
15	定期試験
16	答案返却・解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 理学療法総合評価学 ）

学科名 理学療法科

学年 3年

1 授業の内容

正常・異常画像を読んで、そこから疾患を学ぶ（X-p・CT・MRI・エコーなど）

2 到達目標

画像から評価・疾患を考えることができる

国家試験問題の画像を解くことができる

3 授業の方法

適宜スライド・画像を提示する

4 成績評価方法・基準

定期試験100%

5 評価の際の特記事項

画像から病名・症状を理解し、一般的な理学療法を説明できること。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

多くの画像を図書室の書籍やインターネット等を利用し見ること

7 使用教材，教具

画像評価 医学書院

8 学生へのメッセージ

まずは正常画像をしっかりと見るできるようになり、各疾患の典型画像を覚えていきましょう

9 教員氏名（ 川原洋一 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 理学療法科 ）

実務経験の詳細（ 病院にて理学療法士として勤務 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 理学療法総合評価学 ）

回数	授業内容
1	画像総論
2	整形外科画像総論
3	整形外科画像（上肢）
4	整形外科画像（下肢）
5	整形外科画像（脊柱）
6	脳画像（MRI）
7	脳画像（CT）
8	脳画像（まとめ）
9	内科画像（胸部）
10	内科画像（腹部）
11	小テスト 解説
12	整形外科、脳画像からの疾患別①
13	整形外科、脳画像からの疾患別②
14	まとめ
15	定期試験
16	まとめ・試験返却・解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 運動器理学療法学演習 ）

学科名 理学療法科

学年 3年

1 授業の内容

骨・関節疾患についてそれぞれの項目に対して、疾患の概要とそれに則した評価・治療の実際について概説する。

2 到達目標

骨・関節疾患に対して適切な検査・測定を実施でき、臨床推論に基づいて問題点と解決策を考えられるようになる。

3 授業の方法

PC プロジェクタを利用したパワーポイントによる講義の他、必要に応じて実技を実施する。また適宜小テストも実施する。

4 成績評価方法・基準

筆記試験：100%

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って、事前に予習・復習をしてくること。

7 使用教材，教具

運動器障害理学療法学テキスト，南江堂

8 学生へのメッセージ

運動器疾患は臨床現場において、ほぼ必ず遭遇します。また、臨床実習や国家試験においても必須の科目です。本科目を通して各疾患の病態と、それに則した理学療法の実施について学びます。

9 教員氏名 （ 大石 勝規 ）

所 属 （ こころ医療福祉専門学校 理学療法科 ）

実務経験の詳細（ 病院にて理学療法士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 運動器理学療法学演習 ）

回数	授業内容
1	運動器疾患に対する理学療法の概論・運動器系障害総論
2	組織の治癒に関する総論・痛みと理学療法
3	変形性膝関節症の病態・評価
4	変形性股関節症の病態・評価
5	変形性脊椎症・腰痛症の病態・評価
6	脱臼の病態・評価
7	大腿骨頸部骨折・転子部骨折の病態・評価
8	上腕骨近位部骨折・橈骨遠位端骨折の病態・評価
9	脊椎圧迫骨折・その他骨折の病態・評価
10	肩関節周囲炎・胸郭出口症候群の病態・評価
11	関節リウマチの病態・評価
12	筋・軟部組織損傷の病態・評価
13	スポーツ障害の病態・評価
14	運動器理学療法のとめ
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名(神経障害理学療法学演習)

学科名 理学療法科

学年 3年

1 授業の概要

神経障害理学療法学の授業と関連した内容の授業を行いながら、国家試験対策を実施していく

2 到達目標

関連用語、専門用語の理解を深め、それが説明できるように学習を進めていく。そして、授業を通して中枢神経障害患者の疾患や症状等がイメージでき、症状に対する予測やリスク管理等が行えるようになる。

3 授業の方法

教科書を使用した講義、実技を行い、その後、確認のための国家試験問題を解説する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

ファイルや参考資料をいつでも見直せるように綺麗に整理しましょう。

6 授業時間外学習

解剖学等で学習した脳の基礎的な構造等を復習しておくこと。理解度を促進するためにも授業毎に授業内容の復習を行うこと。

7 使用教材，教具

今まで使用した神経系の教科書・国家試験問題集

8 学生へのメッセージ

これまで学習した神経障害理学療法学や解剖学・生理学などの基礎的な知識の理解をもう一度深めていきましょう。

9 教員氏名（ 田中努 ）

所 属（ ところ医療福祉専門学校 理学療法科 ）

実務経験の詳細（ 病院にて理学療法士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名(神経障害理学療法演習)

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	脳血管障害
3	脳血管障害の理学療法
4	高次脳機能障害
5	高次脳機能障害の理学療法
6	変性疾患
7	変性疾患の理学療法
8	嚥下障害
9	正常圧水頭症
10	脱髄性疾患
11	末梢神経障害
12	末梢神経障害の理学療法
13	筋疾患
14	まとめ
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名(内部障害理学療法学演習)

学科名 理学療法科学年 3年

1. 授業の概要

循環器・代謝障害、呼吸器障害について教科書や演習問題を使用し、国家試験対策向けた学修を行う。

2. 到達目標

内部疾患患者に対し治療・訓練を実施する際のリスク管理、患者の変化の観察ポイントを説明でき、実際の評価、プログラムの立案ができるように演習を行う。

3 授業の方法

教科書を使用した講義と国家試験の問題を使用し演習を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

振り返りができるように資料を整理し、まとめてください。

6 授業時間外学習

シラバスに沿って事前に授業で行われる内容は予習をしておくように。

授業ごとの病態と運動療法を復習し、理学療法評価、治療を理解するように。

7 使用教材，教具

シンプル理学療法シリーズ「内部障害理学療法学テキスト」（改訂第3版）南江堂

8 学生へのメッセージ

内部疾患を持つ患者は増加しています。臨床現場で実際に対応できるように、知識。理学療法技術を習得できるように頑張りましょう。

9 教員氏名(三根 立己)

所 属(ころ医療福祉専門学校 理学療法科)

実務経験の詳細 (病院にて理学療法士として勤務経験あり)

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名(内部障害理学療法演習)

回数	授業内容
1	循環器の解剖生理
2	病態の理解①(肥大型心筋症・大動脈解離)
3	病態の理解②(心不全、心筋梗塞)
4	心電図の診かた(理学療法評価)
5	心肺負荷試験
6	呼吸器の解剖生理
7	呼吸器疾患(COPD、間質性肺炎等)
8	呼吸器疾患(肺水腫、肺腫瘍等)
9	呼吸理学療法の基礎
10	腎障害の理学療法
11	代謝障害の理学療法
12	糖尿病の理学療法
13	がんの理学療法
14	画像診断(CT・MRI)
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 総合理学療法Ⅰ ）

学科名 理学療法科

学年 3年

1 授業の内容

これまで科目別に学んだ専門基礎分野・臨床医学・PT専門分野について、理学療法に役立つ知識として統合する。

2 到達目標

理学療法士養成校の学生が卒業するまでに学修すべき医学・専門分野についての重要事項を分類し理解できる。

3 授業の方法

授業毎の課題に応じ、パソコンでの文献検索・図書室での自主学習を行い、その後解説・ディスカッションを行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って、事前に教科書の予習・復習をしてくること。

7 使用教材，教具

1年から3年までに使用したすべての教科書及び資料

8 学生へのメッセージ

より深い理解のために、自ら積極的に学んで下さい。国家試験に向けた学修でもあり、その後の臨床に向けた学修でもあります。たくさんの知識を習得してください。

9 教員氏名 (三根立己 松本真一郎 山口浩司)
所 属 (こころ医療福祉専門学校 理学療法科)
実務経験の詳細 (全ての教員が病院にて理学療法士として勤務経験あり)

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 総合理学療法Ⅰ ）

回数	授業内容
1	脳梗塞 小テスト 解説
2	脳梗塞 演習
3	変形性膝関節症 小テスト 解説
4	変形性膝関節症 演習
5	脳出血 演習
6	脳出血 小テスト 解説
7	変形性股関節症 小テスト 解説
8	変形性股関節症 演習
9	心筋梗塞 小テスト 解説
10	心筋梗塞 演習
11	大腿骨近位部骨折・脊椎圧迫骨折 小テスト 解説
12	大腿骨近位部骨折・脊椎圧迫骨折 演習
13	心不全 小テスト 解説
14	心不全 演習
15	上腕骨近位部骨折・橈骨遠位端骨折 小テスト 解説
16	上腕骨近位部骨折・橈骨遠位端骨折 演習
17	肺炎 小テスト 解説
18	肺炎 演習
19	脱臼・肩関節周囲炎・胸郭出口症候群 小テスト 解説
20	脱臼・肩関節周囲炎・胸郭出口症候群 演習
21	COPD 小テスト 解説
22	COPD 演習
23	腰椎椎間板ヘルニア・腰部脊柱管狭窄症 小テスト 解説
24	腰椎椎間板ヘルニア・腰部脊柱管狭窄症 演習
25	神経筋疾患 小テスト 解説
26	神経筋疾患 演習
27	心理(心理発達・心理検査)
28	心理(心理療法・面接)
29	糖尿病 小テスト 解説
30	糖尿病 演習
31	心理(自我・防衛機制・障害受容)
32	心理(その他)
33	高齢者疾患 小テスト解説
34	高齢者疾患 演習
35	関節リウマチ 小テスト 解説

36	関節リウマチ 演習
37	消化器疾患 小テスト 解説
38	消化器疾患 演習
39	骨粗鬆症・切断・熱傷 小テスト 解説
40	骨粗鬆症・切断・熱傷 演習
41	筋ジストロフィー 小テスト 解説
42	筋ジストロフィー 演習
43	精神医学(統合失調症)
44	精神医学(気分障害)
45	臨床心理 小テスト 解説
46	臨床心理 演習
47	精神医学(認知症・アルツハイマー病)
48	精神医学(てんかん・依存症・適応障害など)
49	精神医学 小テスト 解説
50	精神医学 演習
51	スポーツ障害・骨端症 小テスト 解説
52	スポーツ障害・骨端症 演習
53	脳血管疾患画像 小テスト 解説
54	脳血管疾患画像 演習
55	整形疾患画像 小テスト 解説
56	整形疾患画像 演習
57	胸部画像 小テスト 解説
58	胸部画像 演習
59	定期試験
60	試験解説(内科系)
61	試験解説(整形外科系)

シラバス（授業計画書）

科目名（ 総合理学療法Ⅱ ）

学科名 理学療法 科

学年 3年

1 授業の内容

これまで科目別に学んだ専門基礎分野 解剖学，生理学，運動学，人間発達学について理学療法に役立つ知識として統合する。

2 到達目標

理学療法士養成校の学生が卒業するまでに学修すべき専門分野についての重要事項を分類し理解し，臨床に対応できるようにする。

3 授業の方法

臨床実習で身に付けた専門職としての心構え，マナー，理学療法士に必要な知識，技術をさらに磨きをかけるために，調べ学習&内容のセアリングを通して共有化できるように進めていきます。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

ファイルをいつでも見直せるように綺麗に整理しましょう。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

事前学習，調べ学習，事後学習は基本に戻って教科書で行ってください。

7 使用教材，教具

＜参考図書＞ メディックメディア：クエスチョン・バンク 2021 共通問題
国家試験必修ポイント 基礎医学

8 学生へのメッセージ

座学で課題を知り，自学で課題を検索し，他者の意見に傾聴し，自分の考えを伝えることができるように，国家試験，就職後に必要な知識習得を目指します。

9 教員氏名 (川原洋一 松本真一郎 山口浩司)

所 属 (ころ医療福祉専門学校 理学療法科)

実務経験の詳細 (全ての教員が病院にて理学療法士として勤務経験あり)

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 総合理学療法Ⅱ ）

回数	授業内容
1	国家試験について 過去三科目試験（解剖）
2	国家試験について 過去三科目試験（生理）
3	国家試験について 過去三科目試験（運動学）
4	国家試験について 過去三科目試験（まとめ）
5	生理学 A総論
6	生理学 B筋
7	生理学 C神経
8	生理学 筋・神経まとめ
9	生理学 D感覚
10	生理学 E言語
11	生理学 F運動
12	生理学 G自律神経
13	生理学 H 呼吸
14	生理学 I 循環
15	生理学 J 血液・免疫
16	生理学 呼吸・循環・血液・免疫まとめ
17	生理学 K咀嚼，消化，吸収
18	生理学 L排尿
19	生理学 M排便
20	生理学 咀嚼，消化，吸収・排尿・排便まとめ
21	生理学 N内分泌
22	生理学 O体温調節
23	生理学 P生殖
24	生理学 Q老化
25	生理学 まとめ 総論～血液
26	生理学 まとめ 総論～血液
27	生理学 まとめ 呼吸～老化
28	生理学 まとめ 呼吸～老化
29	解剖学 A総論
30	解剖学 B骨格系
31	解剖学 C筋系
32	解剖学 総論・骨格系・筋系まとめ
33	解剖学 D神経系
34	解剖学 E脈管系
35	解剖学 F内臓諸器官

36	解剖学 G感覚器
37	解剖学 H体表解剖
38	解剖学 I断層解剖
39	解剖学 J組織
40	解剖学 体表解剖・断層解剖・組織まとめ
41	解剖学 まとめ 総論～筋系
42	解剖学 まとめ 総論～筋系
43	解剖学 まとめ 神経系～組織
44	解剖学 まとめ 神経系～組織
45	運動学 A総論
46	運動学 B四肢と体幹の運動
47	運動学 四肢と体幹の運動まとめ
48	運動学 総論・四肢と体幹の運動まとめ
49	運動学 C動作分析
50	運動学 D姿勢
51	運動学 E歩行
52	運動学 F運動制御
53	運動学まとめ 総論～運動
54	運動学まとめ 総論～運動
55	運動学まとめ 動作分析～運動制御
56	人間発達学 A総論
57	人間発達学 B各期における発達
58	まとめ（解剖学・生理学・運動学・人間発達学）
59	定期試験
60	答案返却，解説
61	答案返却，解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床実習Ⅳ ）

学科名 理学療法科
学年 3 年

1 授業の内容

病院・クリニック・施設において、実習教育者の教育のもと患者・利用者とかかわり、学内で学んだ知識・技術を実践する。

2 到達目標

- (1) 専門職としての適性およびふさわしい態度を身につけることができるようになる。
- (2) 対象者本人および他部門からの情報収集ができるようになる。
- (3) 安全性とリスク管理に配慮できるようになる。
- (4) 対象者に即した検査・測定方法を選択し、実施することができるようになる。
- (5) 情報収集・検査・測定の結果を適切に記録し、内容に信頼性を持たせることができるようになる。
- (6) 得られた情報から問題点を抽出し、統合と解釈を行うことができるようになる。
- (7) 治療目標（ゴール）を設定することができるようになる。
- (8) 治療方法（理学療法プログラム）について立案することができるようになる。
- (9) 理学療法関連業務を経験する。
- (10) 理学療法経過記録の作成、報告を経験する。

3 授業の方法

臨床実習現場にて実習を展開する。実習状況は実習教育者と連絡を取り進めていく。
なお、実習地に専任教員が訪問し実習状況を確認する。

4 成績評価方法

実習規定終了 60%・課題・学習記録 20%・実習経験シート 20%

5 評価の際の特記事項

既定の実習終了で 60 点・課題・学習記録 20%・実習経験シート 20%
臨床実習教育者のコメントを考慮して学科内で評価します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

デイリーノート・実習教育者の課題・理学療法評価学・関節可動域訓練・徒手筋力検査法・理学療法治療学・

7 使用教材，教具

特に指定なし

8 学生へのメッセージ

理学療法士になるための最後の実習です。臨床実習Ⅲ期の経験を生かして、さらに自ら学ぶ姿勢を持ち理学療法士になる準備をしましょう。

9 教員氏名（ 三根 立己 ）

所 属（ ところ医療福祉専門学校 理学療法科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床実習Ⅳ）

回数	授業内容
	【実習期間】
	3 年前期（5 月～7 月の期間で1 0 週間）
	【実習時間】
	1 週間 4 5 時間（実習地：8 時間×5 日＋自宅学修：1 時間×5 日）
	合計 1 0 週間 3 6 0 時間（4 5 時間×1 0 週）
	【実習場所】
	学校にて各学生を実習地に配置する

シラバス（授業計画書）

科目名（ 統計学・研究法 ）

学科名 理学療法 科

学年 2 年

1 授業の内容

研究とは、物事について深く考えたり調べたりして真理を明らかにすることである（大辞林 第三版：三省堂）。日々進歩していく医療の中で、研究に興味がないという人もいるが、新たな知識に基づく理論と技術の体系には研究が必須である。本講義では、専門家として他者の研究成果を活用するために、少なくとも研究論文を理解し、他者へ説明できるように学習する。また同時に、色々な統計解析方法に触れてみる

2 到達目標

- ・理学療法分野における、和文論文などの研究論文を読めるようになる（特に、図・表、結果が理解できる）こと
- ・興味のある分野の研究論文をまとめ、相手に伝えることができるようになること
- ・統計学の解析方法を学び、国家試験問題を解けるレベルになること

3 授業の方法

統計学の教科書および配布資料を用いて講義を行う

4 成績評価方法・基準

定期試験 80% レポート 20点

5 評価の際の特記事項

定期試験においては、統計解析方法、計算式など教科書にでてくる内容を主に出題します

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書にある演習問題にチャレンジする

7 使用教材，教具

リハビリテーション統計学 15 レクチャーシリーズ：対馬栄輝・木村雅彦 責任編集，
(株) 中山書店

8 学生へのメッセージ

我々の生活の中には、不思議な事象が数多く存在する。例えば、飛行機は鉄の塊だが、飛んでいるときには落ちないと信じることができる。また、全身麻酔による手術においても、術後必ず覚醒すると信じることができる。それは、科学的なリサーチの結果“科学的な根拠”に基づくプログラムに沿って物事を進め、間違いが起こらなかったことで確信が持てるからである。是非、統計学を通して、リサーチ（調査・研究）の面白さを学んでほしい。

9 教員氏名（ 金ヶ江 光生 ）

所 属（ 西諫早病院 総合リハビリテーション部 ）

実務経験の詳細 （ 病院にて理学療法士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 統計学・研究法 ）

回数	授業内容
1	統計学について
2	母集団と標本，代表値（平均・中央値，最頻値）について
3	正規分布について（パラメトリック検定・ノンパラメトリック検定について）
4	帰無仮説と対立仮説について（第Ⅰ種の誤りと第Ⅱ種の誤り），有意確率について
5	相関・回帰，平均の差の検定について（t-検定）
6	分割表の検定について（ χ^2 検定）
7	重回帰分析について
8	ロジスティック回帰分析について
9	研究デザイン・PECO について
10	各研究の利点と欠点・対象とバイアス（偏り）について
11	研究論文について（論文の検索方法を理解する）
12	研究論文について（論文選択・論文の内容を理解する）
13	統計に関する国家試験対策
14	まとめ
15	定期試験
16	答案返却，解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ トレーニング論Ⅰ ）

学科名 理学療法 科

学年 2 年

1 授業の内容

授業は「健康運動実践指導者養成用テキスト」に沿って行い、健康づくりを目的とした運動プログラムを作成するための基礎知識を学習する

2 到達目標

- 1) トレーニングの原則と効果について理解し、各原則の重要性に沿ったプログラムを作成できる
- 2) 生活習慣病予防における身体活動の必要性を述べることができる
- 3) 有酸素性能力、筋力、平衡性、柔軟性の向上が日常生活にどのような影響を与えるかを理解する
- 4) レジスタンス運動とはどのような運動か理解する
- 5) エアロビックダンス運動とはどのような運動か理解する
- 6) 性・年齢などの諸条件を考慮した安全かつ効果的な運動プログラムを理解する

3 授業の方法

健康運動実践指導者養成用テキストに沿って行います

4 成績評価方法・基準

定期試験 80% 小テスト 20%

5 評価の際の特記事項

定期試験は、健康運動実践指導者認定試験に沿った内容を出題します

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書を読み進め、テキストにあるDVDをしっかりと確認し、実演ができるように努力すること

7 使用教材、教具

主に健康運動実践指導者養成用テキストを使用し、適宜資料配付します。

実技の際には適したウェアを着用してください。

8 学生へのメッセージ

自ら正しいフォームを示し指導できることは運動指導者にとって大切なことです。積極的に授業に参加してください。

9. 教員氏名（ 川原洋一 ）

所 属 （ ころ医療福祉専門学校 理学療法科 ）

実務経験の詳細 （ 病院にて理学療法士として勤務経験あり ）

10. 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名(トレーニング論Ⅰ)

回数	授業内容
1	健康づくりのための身体活動基準 2013, アクティブガイド
2	トレーニングの原則, 健康づくりのための運動プログラムの基礎
3	ウォームアップとクールダウン, 有酸素性運動と無酸素性運動の特性
4	有酸素性運動のプログラミング
5	レジスタンス運動の種類
6	レジスタンス運動のプログラミング
7	ウォーミングアップの実際
8	クーリングダウンの実際
9	エアロビクス特有の音楽, 動きを体感
10	音楽に合わせて基本的な動きを習得
11	基本的な動きを使ってキューイングの練習
12	動作スキルの向上 手本となる動きの習得
13	キューイングを使った指導の練習 小テスト 解説
14	全体の観察を行いながらのリードの練習 実技指導 小テスト 解説
15	定期試験
16	定期試験返却・解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ トレーニング論Ⅱ ）

学科名 理学療法 科

学年 2 年

1 授業の内容

授業は「健康運動実践指導者養成用テキスト」に沿って行い、レジスタンスエクササイズや水泳・陸上運動について学習する

2 到達目標

- 1) 新体力テストの各項目と体力要素との関連を理解し、それらを実施できる
- 2) 体力測定結果の分析・評価・活用方法を理解する
- 3) レジスタンスエクササイズを筋活動様式に分類し、特徴や違いを説明できる
- 4) 自重、器具を利用したそれぞれの方法による運動種目を理解し、見本を示すことができる
- 5) 安全で効果的なレジスタンスエクササイズを行うための留意点を説明できる
- 6) 水泳・水中運動と陸上運動との違いを理解し、特性に応じた運動を示すことができる

3 授業の方法

健康運動実践指導者養成用テキストに沿って講義形式で授業を行います。レジスタンスエクササイズは実践も行います。

4 成績評価方法・基準

定期試験 40% 実技 60%

5 評価の際の特記事項

定期試験は、健康運動実践指導者認定試験に沿った内容を出題します。実技試験は、実際の資格取得する際の、運動項目を実演してもらいます。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書を読み進め、テキストにあるDVDをしっかりと確認しておくこと

7 使用教材、教具

主に健康運動実践指導者養成用テキストを使用し、適宜資料配付します。

実技の際には適したウェアを着用してください。

8 学生へのメッセージ

自ら正しいフォームを示し指導できることは運動指導者にとって大切なことです。自ら見本を示せる実技能力と、特に集団に対する運動指導技術に長けた者となり、資格取得に向けて頑張っていきましょう。

9 教員氏名（ 川原 洋一 ）

所 属 （ ころろ医療福祉専門学校 理学療法科 ）

実務経験の詳細 （ 病院にて理学療法士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ トレーニング論Ⅱ ）

回数	授業内容
1	体力測定理論
2	形態及び体脂肪の測定
3	体力測定の実際
4	体力測定の評価
5	自体重負荷の基本的なレジスタンスエクササイズ 下半身
6	自体重負荷の基本的なレジスタンスエクササイズ 体幹
7	フリーウェイトを使用したレジスタンスエクササイズ 上半身
8	フリーウェイトを使用したレジスタンスエクササイズ 下半身
9	フリーウェイトを使用したレジスタンスエクササイズ 全身
10	体幹スタビリティエクササイズ
11	水中運動と陸上運動について
12	水中運動と陸上運動の効果・利点・問題点
13	実技試験 フィードバック 修正・演習
14	実技試験 フィードバック 修正・演習
15	定期試験
16	答案返却及び試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 運動学Ⅱ ）

学科名 理学療法 科
学年 2 年

1 授業の内容

運動学は理学療法士が理学療法を行う上で基礎となる学問です。運動学Ⅱでは運動学Ⅰで学んだことをより深く学び、関節運動・動作（基本動作・歩行）を追求します。

2 到達目標

- ①関節運動を運動学的に説明できる
- ②動作観察から動作分析ができる
- ③歩行分析の方法がわかる

3 授業の方法

運動学の教科書をもとにプリント作成・PowerPoint で授業。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

適宜、理解度を確認するためにレポートや小テストを行うことがあります。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って、事前に予習・復習をしてくること。

7 使用教材，教具

基礎運動学 第6版 医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

運動学Ⅱはより実践的な動作分析・歩行分析を学びます。実習や臨床で必要な報告書が書けるように頑張りましょう。自分で理解していることを報告書にすることは、他人に伝える手段を学ぶと共に自分で振り返るための手段になります。実習でも苦労するところですので実践できるようにしましょう。

9 教員氏名（ 大石 勝規 ）

所 属 （ こころ医療福祉専門学校 理学療法科 ）

実務経験の詳細（ 病院にて理学療法士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 運動学Ⅱ ）

回数	授業内容
1	肩関節の運動学
2	肘関節の運動学
3	手関節・手指の運動学
4	股関節の運動学
5	膝関節の運動学
6	足関節・足部の運動学
7	脊柱の運動学
8	姿勢
9	運動学習
10	運動学まとめ①
11	基本動作
12	歩行①
13	歩行②
14	運動学まとめ②
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 整形外科学 ）

学科名 理学療法 科

学年 2 年

1 授業の内容

整形外科疾患で臨床的に対応する機会の多い代表的な各関節疾患について、臨床的な内容を中心に解剖学、運動学、生理学に基づき、また病院での経験を通して、理学療法士として必要とされる病態・治療の解説を行い、実技を含め講義を行います。

2 到達目標

整形外科学の各疾患について解剖学、運動学、生理学に基づいた病態や治療法の基本的・応用的な知識を習得する。

3 授業の方法

標準整形外科学（第13版）およびパワーポイント資料を用いて講義を行います。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

積極的な質問やこちらからの質問の返答など授業への参加の程度を総合的に評価します。理解度を確認するためにレポートや小テストを行うことがあります。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業内容について事前に教科書・資料等の予習復習をして下さい。特に、配布資料については十分復習し、わからない点については適宜質問するようにして下さい。

7 使用教材、教具

標準整形外科学 第13版 医学書院

8 学生へのメッセージ

整形外科疾患について実際の臨床場面での内容について触れることにより、教科書などで学んだ基本的な解剖学や運動学、生理学に基づいて病態を理解し、科学的根拠のある治療を展開できるように、興味を持って取り組んでもらいたいと思います。

9 教員氏名（ 大石 勝規 田中康明 ）

所 属（ 大石：こころ医療福祉専門学校 理学療法科 ）

（ 田中：済生会長崎病院 ）

実務経験の詳細 （ 両名とも病院にて理学療法士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 整形外科学 ）

回数	授業内容
1	肩関節疾患について
2	肩関節疾患の術後について
3	肘関節疾患について
4	手関節疾患について
5	脊柱疾患について
6	股関節疾患について
7	股関節疾患の術後について
8	膝関節疾患について
9	膝関節疾患の術後について
10	足関節・足部疾患について
11	わが国の現状と健康づくり施策、整形外科学概論
12	整形外科学総論(スポーツ外傷の疫学・メディカルチェック)
13	リハビリテーション、その他の治療、予防(スポーツ外傷)
14	整形外科学総論(先天異常、系統疾患、生活習慣病)
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 神経内科学 ）

学科名 理学療法 科

学年 2 年

1 授業の内容

基礎的な構造、仕組みを理解したうえで疾患による諸症状を学び、それによりどういった能力低下を呈すかを講義を中心として理解する。また、主な神経疾患とそのリハビリテーションについて、分類や成因、症候、治療方針について学習する。

2 到達目標

各種神経疾患の成因、症候、治療方針を説明できる。

3 授業の方法

教科書を基本に授業を進め、PC プロジェクターを使用したパワーポイントによる講義の他、講義内容に関連する資料を適宜配布致します。

4 成績評価方法・基準

定期試験 60% 小テスト 30% 授業態度 10%

5 評価の際の特記事項

定期試験は講義の内容以外は出題しませんが、自分の意見を述べる場面では積極的に自分の考えを発言しているかを考慮します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

毎回、前回の内容を復習する時間を作ります。その中で曖昧な部分を明確にして復習してください。

7 使用教材、教具

神経内科学テキスト（改定第4版）南江堂

8 学生へのメッセージ

専門用語も多いですが、一つ一つの意味をよく理解し病態の整理を行ってください。

9 教員氏名（ 笹原 順哉 ）

所 属（ 社会医療法人春回会 長崎北病院 ）

実務経験の詳細（ 病院にて理学療法士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 神経内科学 ）

回数	授業内容
1	神経内科学総論
2	神経診断学
3	脳血管障害（1）脳血管の分類 疫学 解剖と生理
4	脳血管障害（2）脳血管障害の分類について
5	脳血管障害（3）脳出血 脳梗塞の症状について
6	脳血管障害（4）脳血管障害の理学療法について
7	神経疾患各論（変性疾患）
8	神経疾患各論（脱髄疾患，末梢神経障害）
9	神経疾患各論（筋疾患，神経筋接合部疾患，脳腫瘍）
10	小テスト 解説
11	神経疾患各論（感染性疾患）
12	神経疾患各論（外傷，代謝・中毒性疾患）
13	神経疾患各論（自律神経疾患，機能性疾患，認知症疾患）
14	まとめ
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 治療技術 ）

学科名 理学療法 科

学年 2 年

1 授業の内容

理学療法に必要な運動学や解剖学的な基礎的な知識復習と、症状に対する解釈の糸口を見つけながら理学療法を展開して行くクリニカルリーズニングを学習する

2 到達目標

症状に対する分析ができ、さらに適切な理学療法のプランニングが出来るようになる。

3 授業の方法

P C プロジェクタを利用したパワーポイントによる講義の他、提示する症例に関連する分析をグループで実施する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80% 授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

授業態度は、質問の返答、グループワークの積極性等を総合的に評価します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

技術的な内容となるため、円滑にスキルができるために感覚やコツなどをしっかりとつかんでいきましょう。

7 使用教材，教具

配布資料

8 学生へのメッセージ

実習で最も重要となる評価の集大成となります。今まで学んだ評価を復習しておいて下さい。

9 教員氏名 （ 田中 努 ）

所 属 （ こころ医療福祉専門学校 理学療法科 ）

実務経験の詳細 （ 病院にて理学療法士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (治療技術)

回数	授業内容
1	クリニカルリーズニング概要
2	症例に対するクリニカルリーズニングの展開
3	腰部領域の障害に関わる解剖
4	腰部領域に関わる疾患の評価と治療方法の選択基準
5	股関節領域の障害に関わる解剖
6	股関節領域に関わる疾患の評価と治療方法の選択基準
7	膝関節領域の障害に関わる解剖
8	膝関節領域に関わる疾患の評価と治療方法の選択基準
9	足関節領域の障害に関わる解剖
10	足関節領域に関わる疾患の評価と治療方法の選択基準
11	肩部領域の障害に関わる解剖
12	肩部領域に関わる疾患の評価と治療方法の選択基準
13	脊柱領域の障害に関わる解剖
14	脊柱領域に関わる組織の触診, 評価と治療方法の選択基準
15	モビライゼーションに必要な解剖
16	モビライゼーションに必要な評価
17	関節の遊びについて
18	凹凸の方法について
19	四肢のモビライゼーション
20	ストレッチング概論
21	ストレッチング上肢
22	ストレッチング下肢
23	ストレッチング体幹
24	神経モビライゼーション概要
25	神経モビライゼーション検査
26	メディカルマッスルトレーニング下肢
27	メディカルマッスルトレーニング上肢
28	評価(整形テスト, 短縮テスト)まとめ
29	定期試験
30	答案返却, 解説
31	答案返却, 解説, 講義総括

シラバス（授業計画書）

科目名（ 頤損・脊損 ）

学科名 理学療法 科

学年 2 年

1 授業の内容

脊髄損傷のリハビリテーションには急性期からの合併症の予防をはじめ、機能訓練、ADL の自立を経て社会復帰までの一連の流れにおいて、専門的な知識や適切な理学療法が必要とされる。本科目ではそれらを理解するための知識、実践的なアプローチ法など実技を含め学習する。

2 到達目標

頤髄損傷から不全損傷の病態およびその評価、急性期の合併症の予防策、損傷部位別のアプローチ法、家庭復帰までの理学療法を習得する。

3 授業の方法

指定教科書に準じた講義を中心に実施し、必要に応じて実技を交える。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

授業の出席率、質問の返答、積極性なども重視します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業計画書に沿った予習と行った授業内容の復習をして頂きたい。

7 使用教材、教具

教科書：脊髄損傷理学療法マニュアル 第3版 文光堂

8 学生へのメッセージ

脊髄損傷は損傷部位や程度により症状が大きく異なる為、損傷部位別での症状、アプローチや獲得可能な動作、ADL、合併症を学んでいきます。また、装具や福祉機器の活用、住宅改修など環境面のアプローチなども多くの専門知識を必要とします。その中でまずは疾患の理解を深めていきましょう。

9 教員氏名（ 三根 立己 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 理学療法科 ）

実務経験の詳細（ 病院にて理学療法士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 頸損・脊損 ）

回数	授業内容
1	総説
2	理学療法の評価（症状と診断）
3	理学療法の評価（障害の理解）
4	呼吸理学療法
5	急性期理学療法
6	回復期理学療法
7	基本動作（寝返り、起居動作）
8	基本動作（座位、起立）
9	移乗動作
10	立位・歩行
11	日常生活動作（移動）
12	日常生活動作（その他）
13	まとめ（理学療法評価）
14	まとめ（理学療法アプローチ）
15	定期試験
16	答案返却，解説

シラバス（授業計画書）

科目名（救急救命医学・画像診断学）

学科名 理学療法科
学年 2年

1 授業の内容

救急救命医療を学ぶ（制度・役割・災害時を含む）
画像診断学を学ぶ（X-p・CT・MRI・エコーなど）

2 到達目標

救急救命医療を理解する
ICU・CCU などでの理学療法士の役割を理解する
画像診断に基づく評価を考えることができる

3 授業の方法

指定テキストを使用
適宜スライド・画像を提示する

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

救急救命医療を体制を理解し、その中での理学療法士の役割を理解できる。
典型画像を理解しているかどうか。病名・症状を理解し、一般的な理学療法を説明できること。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

多くの画像を図書室の書籍やインターネット等を利用し見る

7 使用教材，教具

画像評価 医学書院

8 学生へのメッセージ

理学療法士は診断をしません。医師の診断をもとに理学療法を展開していきます。
しかしながら、画像から情報を得て、理学療法を行うことはその限りではありません。
画像を理解し、医師とディスカッションできるようになることで、予後予測や理学療法を安全に進めることができるようになります。まずは正常画像をしっかりと見る
ことができるようになり、各疾患の典型画像を覚えていきましょう
救急医療における理学療法士の役割とリスク管理について理解してください

9 教員氏名（ 大石 勝規 ）
所 属（ こころ医療福祉専門学校 理学療法科 ）
教員氏名（ 三根 立己 ）
所 属（ こころ医療福祉専門学校 理学療法科 ）
実務経験の詳細（ 両名とも病院にて理学療法士として勤務 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（救急救命医学・画像診断学）

回数	授業内容
1	画像診断総論
2	脳画像（CT）
3	脳画像（MRI）
4	脳画像（機能局在）
5	脳画像（まとめ）
6	整形外科画像（上肢）
7	整形外科画像（下肢）
8	整形外科画像（エコー）
9	整形外科画像（まとめ）
10	内科画像（胸部）
11	内科画像（腹部）
12	内科画像（エコー）
13	救急救命医学①
14	救急救命医学②
15	定期試験
16	まとめ・試験返却・解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 医学概論 ）

学科名 理学療法科

学年 2年

1 授業の内容

疾病・障害の成り立ち（病因と病態）から障害予防について、細胞の変化から学習する。特に、運動中止を判定すべき重要な病態を中心に、注意すべき自覚症状や他覚徴候を解説する。

2 到達目標

運動時に発生が想定される症状や、その発生要因となる基礎疾患について説明できる力、救急時の対応をシミュレーターで実施できる力を身につけさせる。

3 授業の方法

教科書、授業プリント、PC プロジェクタを利用した授業を実施する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 90% 小テスト 10%

5 評価の際の特記事項

小テストは授業が終了した内容を試験範囲として、予め通知した日程で実施する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って事前に教科書の予習をしておくこと。これにより、授業内容の理解が深まる。また復習で知識の定着がなされているかを確認するため、小テストを実施する。

7 使用教材、教具

健康運動実践指導者 養成用テキスト 財団法人 健康・体力づくり事業財団
配布プリント

8 学生へのメッセージ

正常像の知識がなければ病的状態は理解できない。生理学・解剖学の復習も並行して行うことが必要である。

9 教員氏名（ 世羅 至子 ）

所 属 （ 長崎県立大学看護栄養学部健康科 ）

実務経験の詳細（ 医師として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (医学概論)

回数	授業内容
1	身体症状の理解 (1) 発熱 (炎症の定義 機序 種類)
2	身体症状の理解 (1) 発熱 (体温調節機構 熱中症)
3	身体症状の理解 (2) 胸痛 (局所循環障害 血栓症 塞栓症 梗塞 浮腫)
4	身体症状の理解 (2) 胸痛 (全身循環障害 高血圧症 低血圧症 ショック)
5	身体症状の理解 (2) 胸痛 (免疫異常 アレルギー)
6	身体症状の理解 (3) 頭痛 (局所循環障害 充血 うっ血 出血)
7	心・脳血管疾患と生活習慣病 (糖尿病 高脂血症 メタボリック・シンドローム)
8	身体症状の理解 (4) 息切れ (喘息 慢性閉塞性肺疾患 COPD)
9	身体症状の理解 (5) 失神 (脳血流調節 貧血 鉄代謝障害)
10	身体症状の理解 (6) 振戦 (アシドーシスとアルカローシス 過換気症候群)
11	内科的急性障害の予防法
12	内科的慢性障害の予防法
13	バイタルサイン 運動中止の判定
14	手当の基本
15	定期試験
16	答案返却, 解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ チーム連携 ）

学科名 理学療法 科

学年 2 年

1 授業の内容

リハビリテーションには、保健、医療、福祉の3つの分野との連携が不可欠です。それぞれの分野で、援助方法や考え方、専門的な用語は異なりますが、多職種が同じ目標に向かって協働する中で、医療福祉職とのチーム連携のあり様を学びます。

2 到達目標

- ・理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等の業務を理解する。理学療法士を目指す一人の人間として関わる全ての方とのチーム連携のあり方を考え、自分なりのイメージを持つことができる。
- ・授業を通して得られたチーム連携に関するキーワードについて説明ができる知識、自身の意見などをまとめて他者へ伝える力を身につける。また、ガンリハビリテーションについての医療チーム連携・主な相談・援助業務内容を理解し、「本人・家族の選択と構築」を支援する医療現場でのチーム連携を体験する。
- ・上記のチーム連携のあり方を考え、自身の意見などをまとめて他者へ伝える力を身につける。

3 授業の方法

PCプロジェクターを使用したパワーポイントによる講義の他、講義内容に関連する課題に対するグループワークを実施。

4 成績評価方法・基準

定期試験（記述）80% 授業態度20%

5 評価の際の特記事項

定期試験は、記述形式で行います。授業態度は、授業中の姿勢、グループワーク中の発言などを含みます。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

日常の中で、人の話を聞く練習をすることと、できればボランティアとして地域の住民組織の活動に参加し、多職種と関わることをやってみてください。

7 使用教材、教具

適宜、配布資料を配ります。

8 学生へのメッセージ

理学療法士としてリハビリテーションを実施し、専門職としてできることをしっかり発信できるよう学びを深めていただきたいと思います。医療の仕事において専門職単独で発生、終了する業務は稀であり、質の高いリハを提供する上でもチーム連携は不可欠な要素です。医療業界ひいては社会で自身の能力を発揮するためのイメージを養っていただきたいと思います。チーム連携はまず、その職種を知ることから始まると思います。今回の授業において他の医療職の理解が深まるきっかけになれば幸いです。

9 教員氏名（ 川原洋一 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 理学療法科 ）

実務経験の詳細（ 病院にて理学療法士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ チーム連携 ）

回数	授業内容
1	医療職の業務について
2	理学療法士，作業療法士，言語聴覚士について
3	他職種連携①総論
4	他職種連携①各論
5	グループワーク（多職種連携）
6	チーム連携（1）概論
7	チーム連携（2）各論
8	チーム連携（3）各論
9	チーム連携の実際
10	グループワーク（事例検討1）
11	グループワーク（事例検討2）
12	リハビリテーション総合実施計画書について調べる
13	多職種における ICF の取り扱いについて調べる
14	まとめ
15	定期試験
16	答案返却，解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 病態運動学 ）

学科名 理学療法科

学年 2年

1 授業の内容

臨床で見られる異常運動について、病態を踏まえた異常運動の解釈・評価および理学療法の実際を概説する。

2 到達目標

病態を踏まえた疾患の捉え方と理学療法の考え方を理解する。

3 授業の方法

教科書を用いて授業を展開していきます。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80% 授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

各テーマに沿ってレポート作成や実技を行い学んでいきます。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って、事前に予習・復習をしてくること。

7 使用教材，教具

教科書：老人のリハビリテーション（第8版）医学書院

参考書：標準整形外科学 他

8 学生へのメッセージ

我々の対象となる患者は、多くの場合何らかの運動学的異常を伴っており、また疾患によりその特徴は異なります。この運動学的異常を理解することは、患者の治療において必須の事項となります。動作分析とともに理学療法士としての臨床力に直結する科目です。理学療法士になった後も研鑽していく分野ですので、基本を押さえながら考え方を理解して、臨床実習で実践できるようになりましょう。

9 教員氏名（ 田中 努 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 理学療法科 ）

実務経験の詳細（ 病院にて理学療法士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 病態運動学 ）

回数	授業内容
1	変形性膝関節症の病態・動作
2	変形性膝関節症の評価・治療
3	大腿骨頸部骨折の病態・動作
4	大腿骨頸部骨折の評価・治療
5	脊髄損傷の病態・動作
6	脊髄損傷の評価・治療
7	フレイル病態・動作
8	フレイル評価・治療
9	肩峰下インピンジメント症候群の病態・動作
10	肩峰下インピンジメント症候群の評価・治療
11	脳血管障害の病態・基本動作
12	脳血管障害の歩行
13	脳血管障害の評価・治療
14	まとめ
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 理学療法管理学 ）

学科名 理学療法科

学年 2年

1 授業の内容

理学療法士は多職種のチームの一員として職務を遂行しています。さらに、医療保険制度や介護保険制度、教育など時代の変化に合わせるための施策の変更に素早く適応する対応力や、積極的に関与していくマネジメント力が求められます。働くうえで必要な制度や職業倫理を理解し個々人が社会人としてのマネジメント力を身につけることが必要となります。

2 到達目標

- ・理学療法士に求められるマネジメント力について制度を理解したうえで、人間関係の構築の大切さを共有する。
- ・職場や組織におけるマネジメントと、リーダーシップやコミュニケーション能力についての意識を高める。

3 授業の方法

講義形式

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

適宜、講義内容をまとめるレポートや小テストを行うことがあります。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書や授業で配布する資料の予習・復習により、知識の定着を促してほしい。

7 使用教材、教具

PTOTST リハビリテーション管理学 第1版 医学書院.

8 学生へのメッセージ

学生として理学療法士として、一人の社会人として身につけておかなければならない人間力を改めて一緒に考える機会になれば良いと思います。

9 教員氏名（ 大石勝規，小泉徹児 ）

所 属（ 大石：こころ医療福祉専門学校 理学療法科 ）

（ 小泉：十善会病院 ）

実務経験の詳細（ 両名とも病院にて理学療法士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 理学療法管理学 ）

回数	授業内容
1	学生として求められる倫理
2	理学療法士に求められる専門職としての職業倫理
3	リーダーシップ
4	コミュニケーション能力
5	社会保障制度、医療保険、介護保険制度
6	病院組織における業務管理と人材管理・教育
7	他職種連携
8	組織・職場のマネジメント
9	ハラスメント
10	理学療法士協会組織について
11	理学療法士の身分と職域の拡大
12	地域連携、地域ケア会議
13	リスクマネジメント
14	養成教育と卒後教育
15	定期試験
16	答案返却・解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 検査測定法Ⅲ(神経) ）

学科名 理学療法 科

学年 2 年

1 授業の内容

検査測定の意味、目的、一般的原則を理解するとともに、中枢性神経疾患の病態や神経学的及び運動学的特色を踏まえ、正確な情報を収集する手技と知識を実技中心に学習する。

2 到達目標

個々の神経学的検査の意味や目的をきちんと踏まえ、適切な検査項目の選定、および正確な手技での検査の実施ならびに記録、さらにその結果の解釈ができる。

3 授業の方法

指定教科書に準じた講義を中心に授業を進める。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

授業の質問の返答、積極性なども重視します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

講義内容のまとめを小テスト形式で実施するので、予習および復習を徹底してもらいたい。

7 使用教材、教具

ベットの神経の診かた 第18版 南山堂

8 学生へのメッセージ

検査測定は、対象者の病態や障害像を正確に把握するための基礎的な情報であり、理学療法をすすめるうえで大切な手がかりとなるのでその重要性を認識して、授業に臨んでください。

9 教員氏名 （ 田中 努 ）

所 属 （ ころろ医療福祉専門学校 理学療法科 ）

実務経験の詳細 （ 病院にて理学療法士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 検査測定法Ⅲ（神経） ）

回数	授業内容
1	総説
2	反射・反応検査（腱反射と表在反射）
3	反射・反応検査（病的反射）
4	反射・反応検査（まとめ）
5	感覚検査（表在感覚，深部感覚，複合感覚）
6	感覚検査（まとめ）
7	協調性検査
8	協調性検査（まとめ）
9	筋緊張検査
10	筋緊張検査（まとめ）
11	運動発達検査
12	運動発達検査（まとめ）
13	片麻痺機能検査
14	片麻痺機能検査（まとめ）
15	バランス検査
16	バランス検査（まとめ）
17	高次脳機能検査
18	高次脳機能検査（まとめ）
19	脳神経検査
20	脳神経検査（まとめ）
21	運動麻痺
22	精神状態
23	運動麻痺，精神状態（まとめ）
24	意識障害
25	不随意運動
26	意識障害，不随意運動（まとめ）
27	実技および試験前復習①
28	実技および試験前復習②
29	定期試験
30	答案返却，解説
31	答案返却，解説，講義総括

シラバス（授業計画書）

科目名（ 検査測定法Ⅳ ）

学科名 理学療法科

学年 2年

1 授業の内容

日常生活における様々な動作について、バイオメカニクスの観点から動作を考察する。

2 到達目標

日常生活における様々な動作を、バイオメカニクスの観点から説明できる。

3 授業の方法

動作のバイオメカニクスに関する講義および動作分析の実技を適宜実施する。

4 成績評価方法・基準

定期試験：100%

5 評価の際の特記事項

適宜小テストやレポートでの理解度を確認することもあります。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って、事前に予習・復習をしてくること。

7 使用教材，教具

動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践
MEDICALVIEW

8 学生へのメッセージ

日常生活における様々な動作を、バイオメカニクスの観点から考察します。

9 教員氏名 （ 大石 勝規 ）

所 属 （ こころ医療福祉専門学校 理学療法科 ）

実務経験の詳細 （ 病院にて理学療法士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 検査測定法Ⅳ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション・臨床における動作分析
2	動作分析の目的
3	力学の基礎
4	身体におけるてこ
5	寝返り動作の概要
6	寝返り動作のシーケンス
7	寝返り動作を可能にするメカニズム
8	寝返り動作の全体的な特徴の観察
9	寝返り動作の目視による動作分析
10	寝返り動作のメカニズムの評価
11	起き上がり動作の概要
12	起き上がり動作の動作を可能にするメカニズム
13	起き上がり動作の目視による動作分析
14	起き上がり動作のメカニズムの評価
15	起き上がり動作を阻害する因子の推論
16	起立・着座動作の概要
17	起立・着座動作のシーケンス
18	起立・着座動作を可能にするメカニズム
19	起立・着座動作の目視による動作分析
20	起立・着座動作のメカニズムの評価
21	起立・着座動作を阻害する因子の推論
22	運動連鎖
23	歩行動作の概要
24	歩行動作のシーケンス
25	歩行動作を可能にするメカニズム
26	歩行動作の目視による動作分析
27	歩行動作のメカニズムの評価
28	歩行動作を阻害する因子の推論
29	定期試験
30	定期試験 解説
31	理学療法士による動作分析のまとめ

シラバス（授業計画書）

科目名（ 理学療法総合演習 ）

学科名 理学療法 科

学年 2年

1 授業の内容

病院・クリニック・施設において、実習教育者の教育のもと患者様・利用者様とかかわり、学内で学んだ知識・技術を実践できるように演習を行う

2 到達目標

- (1) 専門職としての適性およびふさわしい態度を身につけることができるようになる。
- (2) 対象者本人からの情報収集ができるようになる。
- (3) 安全性とリスク管理に配慮できるようになる。
- (4) 対象者に即した検査・測定方法を選択し、実施することができるようになる。
- (5) 情報収集・検査・測定の結果を適切に記録し、内容に信頼性を持たせることができるようになる。
- (6) 得られた情報から問題点を抽出し、統合と解釈を行うことができるようになる。
- (7) 治療目標（ゴール）を設定することができるようになる。
- (8) 治療方法（理学療法プログラム）について立案することができるようになる。
- (9) 理学療法関連業務を経験する。
- (10) 理学療法経過記録の作成、報告を経験する。

3 授業の方法

実技を中心に行っていきます

4 成績評価方法・基準

実技試験 60% レポート・授業態度 40%

5 評価の際の特記事項

適宜課題レポートや学習記録などを提出し、その内容も考慮して学科内で評価します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

実習教育者の課題・デイリーノート・理学療法評価学・関節可動域訓練・徒手筋力検査法・理学療法治療学

7 使用教材，教具

標準理学療法学 専門分野理学療法 臨床実習とケーススタディ第3版 医学書院

8 学生へのメッセージ

理学療法士になるための総合演習です。日頃の学校生活の経験を生かして、さらに自ら学ぶ姿勢を持ち理学療法士になる準備をしましょう。

9 教員氏名（ 大石勝規 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 理学療法科 ）

実務経験の詳細（ 病院にて理学療法士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 理学療法総合演習 ）

回数	授業内容
1	理学療法士になるにあたっての心得
2	コミュニケーションスキル
3	骨関節障害の理学療法評価
4	骨関節障害の理学療法治療
5	骨関節障害のまとめ
6	内部障害の理学療法評価
7	内部障害の理学療法治療
8	内部障害のまとめ
9	中枢神経障害の理学療法評価
10	中枢神経障害の理学療法治療
11	中枢神経障害のまとめ
12	神経筋系障害の理学療法評価
13	神経筋系障害の理学療法治療
14	神経筋系障害のまとめ
15	実技試験
16	フィードバック，解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 物理療法学 ）

学科名 理学療法 科

学年 2 年

1 授業の内容

物理療法は、理学療法において運動療法とともに2大治療技術とされる。物理療法は、生体がもつ「自己治癒力」を高め、理学療法士が行う治療の大きな手助けとなります。物理療法を学ぶことにより、臨床における治療の幅を広げることができるよう学習します。

2 到達目標

物理療法の目的・分類を理解する。

各種物理療法の生理学的作用とそれに基づく治療目的、並びに適応・禁忌を理解し、各種物理療法の実施方法を習得する。

3 授業の方法

PC プロジェクタを利用したパワーポイントによる講義を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 60% 小テスト 40%

5 評価の際の特記事項

定期試験は、国家試験過去問題から出題する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書を事前に読み進め、配布した資料で復習していくこと。

7 使用教材，教具

1 5 レクチャーシリーズ：理学療法テキスト 物理療法学・実習（中山書店）

8 学生へのメッセージ

物理療法を学習していくにあたり、基本的な生理学的知識の復習をしておいて下さい。

9 教員氏名（ 川原洋一 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 理学療法科 ）

実務経験の詳細（ 病院にて理学療法士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 物理療法学 ）

回数	授業内容
1	物理療法の基礎
2	温熱療法：特性と適応・禁忌
3	温熱療法：超音波 ホットパック 特性と適応・禁忌
4	光線療法：レーザー 紫外線 特性と適応・禁忌
5	電気刺激療法：各種電気刺激療法の原理と生理作用光線療法
6	牽引療法：特性と適応
7	牽引療法：牽引療法の禁忌
8	寒冷療法：寒冷療法の種類，特性と適応・禁忌
9	小テスト 演習・解説
10	物理療法（温熱、光線、電気、牽引など）各種実技
11	物理療法（温熱、光線、電気、牽引など）各種実技
12	マッサージ療法
13	リスク管理
14	水治療法，CPM，振動刺激療法の紹介，試験前対策
15	定期試験
16	答案返却，解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 物理療法学演習 ）

学科名 理学療法 科

学年 2 年

1 授業の内容

物理療法学で学んだ知識をもとに、実際の機械を使用しながら学んでいきます。また、実際の病院勤務での経験を通して、患者様に接する基本的な態度とリスク管理を学び、実践力を備えた人材へと成長を促していきます。

2 到達目標

物理療法の目的・分類を理解する。

各種物理療法の生理学的作用とそれに基づく治療目的、禁忌を理解し、各種物理療法の実施方法（オリエンテーション能力、コミュニケーション能力等）を習得する。

3 授業の方法

PC プロジェクタを利用したパワーポイントによる講義、実際の機器を使用した実技を行う。

4 成績評価方法・基準

実技 80% 小テスト 20%

5 評価の際の特記事項

定期試験は、実技試験を行う。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書を事前に読み進め、配布した資料で復習していくこと。

7 使用教材、教具

1 5 レクチャーシリーズ：理学療法テキスト 物理療法学・実習（中山書店）

8 学生へのメッセージ

物理療法を学習していくにあたり、基本的な生理学的知識の復習をしておいて下さい。

9 教員氏名 （ 川原洋一 ）

所 属 （ ころろ医療福祉専門学校 理学療法科 ）

実務経験の詳細 （ 病院にて理学療法士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 物理療法学演習 ）

回数	授業内容
1	物理療法学の復習
2	温熱療法：特性と適応・禁忌 実技
3	温熱療法：超音波 ホットパック 特性と適応・禁忌 実技
4	光線療法：レーザー 紫外線 特性と適応・禁忌 実技
5	電気刺激療法：各種電気刺激療法の原理と生理作用光線療法 実技
6	牽引療法：特性と適応 実技
7	牽引療法：牽引療法の禁忌 実技
8	寒冷療法：寒冷療法の種類，特性と適応・禁忌 実技
9	小テスト 演習・解説
10	物理療法（温熱、光線、電気、牽引など）各種実技
11	物理療法（温熱、光線、電気、牽引など）各種実技
12	疾患に対する物理療法の考察
13	疾患に対する物理療法の統合と解釈
14	まとめ
15	実技試験
16	フィードバック 修正・演習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 義肢装具学Ⅰ ）

学科名 理学療法 科

学年 2 年

1 授業の内容

堀：義肢装具に対する総論，上肢装具などの各論を学ぶ。

高木：装具の構造や機能を理解する。装具の使用が身体に与える影響を理解する。

2 到達目標

堀：国家試験や実習に必要な義肢装具の基礎知識が説明できる。

高木：装具の継手機能の理解と基本的な構造，治療効果を理解する。

3 授業の方法

実際の義肢を用いて教科書に準じた講義を中心に実施し，必要に応じて実技を交える。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業計画に沿って，事前に教科書の予習を行うこと。

7 使用教材，教具

・教科書 PT・OT ビジュアルテキスト義肢装具学 羊土社

・参考書 義肢装具のチェックポイント 医学書院

8 学生へのメッセージ

堀：義肢装具学を学ぶことで，患者さんのADLやQOLによりアプローチすることができます。基礎から学んでいければと思います。

高木：装具は，理学療法を行う上で重要なツールです。しかし，装着するだけで麻痺の改善や歩行能力の改善が得られるわけではありません。装具を理解することで，今まで学んだ基本的知識の理解も深まると思います。

9 教員氏名（ 堀 泰輔 高木 治雄 ）

所 属 （ 堀：いまむら整形外科医院，高木：貞松病院 ）

実務経験の詳細（ 両教員，病院にて理学療法士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 義肢装具学 I ）

回数	授業内容
1	装具学総論
2	末梢神経障害装具総論
3	末梢神経障害装具各論
4	整形外科的装具
5	側弯症装具
6	小児装具
7	関節リウマチ装具，国家試験問題
8	下肢装具総論
9	下肢装具大腿
10	下肢装具下腿
11	対麻痺装具
12	体幹装具
13	靴型装具
14	車いす・義肢装具の給付制度について，国家試験問題
15	定期試験
16	解答返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 義肢装具学Ⅱ ）

学科名 理学療法 科

学年 2 年

1 授業の内容

義肢装具学は、医師を中心とする理学療法士、作業療法士、義肢装具士、エンジニア、ソーシャルワーカーなどによるチームアプローチにより実施され、それぞれの職種に高い専門性が求められる。理学療法士においても、評価、適合判定、細かな修正やメンテナンス、義肢装具を使用しての機能訓練や歩行訓練・ADL 訓練などより専門的な知識や実践的な技術が必要となる。

本講では、義足を中心に演習や実技を交えて、臨床に即した基本的な知識や技術の習得を目指す。

2 到達目標

切断に関する医学的一般事項や各下肢切断の機能的特徴、また義足の種類別の特徴や注意点、チェックポイント、理学療法アプローチ法などを習得する。

3 授業の方法

実際の義肢を用いて教科書に準じた講義を中心に実施し、必要に応じて実技を交える。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

授業の質問の返答、積極性なども重視します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

講義内容のまとめを小テスト形式で実施するので、そのための予習および復習を徹底してもらいたい。

7 使用教材、教具

- ・教科書 PT・OT ビジュアルテキスト義肢装具学 羊土社
- ・参考書 義肢装具のチェックポイント 医学書院

8 学生へのメッセージ

義肢装具は道具・器械が患者さんの身体の一部となることでその機能を最大限発揮します。まずは、疾患についての知識、用いられる義肢道具の名称や特徴などの用語の理解、動作の理解に必要な身体機能など、基本をしっかりと学習していきましょう。

9 教員氏名（ 川原 洋一 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 理学療法科 ）

実務経験の詳細（ 病院にて理学療法士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (義肢装具学Ⅱ)

回数	授業内容
1	総説
2	義肢装具療法の基礎知識
3	装具の分類(上肢装具)
4	装具の分類(下肢装具)
5	装具の分類(体幹装具)
6	靴型装具(クッションヒールなど)
7	靴型装具(ソールウェッジなど)
8	下肢装具適合判定基準
9	短下肢装具適合判定基準
10	下肢装具の部品(クレンザック, オフセット付きなど)
11	下肢装具の部品(背屈制御式, たわみ式など)
12	下腿・大腿義足ソケット
13	異常歩行
14	まとめ
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 運動器理学療法学 ）

学科名 理学療法科

学年 2年

1 授業の内容

骨・関節疾患についてそれぞれの項目に対して、疾患の概要とそれらの具体的理学療法について概説する。

2 到達目標

骨・関節疾患に対して適切な評価項目を選択でき、臨床推論に基づいて治療を考えられるようになる。

3 授業の方法

教科書を中心に PC プロジェクタを利用したパワーポイントによる講義を実施する。

4 成績評価方法・基準

定期試験：100%

5 評価の際の特記事項

適宜小テストやレポートでの理解度を確認することもあります。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って、事前に予習・復習をしてくること。

7 使用教材，教具

理学療法学テキスト 運動器障害理学療法学 MEDICALVIEW

8 学生へのメッセージ

運動器疾患は臨床現場において、ほぼ必ず遭遇します。また、臨床実習や国家試験においても必須の科目です。本科目を通して各疾患の病態と、それに則した理学療法の実施について学びます。

9 教員氏名（ 大石勝規 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 理学療法科 ）

実務経験の詳細（ 病院にて理学療法士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 運動器理学療法学 ）

回数	授業内容
1	運動器疾患に対する理学療法の概論・運動器系障害総論
2	組織の治癒に関する総論・痛みと理学療法
3	変形性膝関節症の病態・理学療法的アプローチ
4	変形性股関節症の病態・理学療法的アプローチ
5	変形性脊椎症・腰痛症の病態・理学療法的アプローチ
6	脱臼の病態・理学療法的アプローチ
7	大腿骨近位部骨折・脊椎圧迫骨折の病態・理学療法的アプローチ
8	上腕骨近位部骨折・橈骨遠位端骨折の病態・理学療法的アプローチ
9	肩関節周囲炎・胸郭出口症候群の病態・理学療法的アプローチ
10	関節リウマチの病態・理学療法的アプローチ
11	筋・軟部組織損傷の病態・理学療法的アプローチ
12	筋・軟部組織損傷の病態とストレッチングを用いた理学療法的アプローチ
13	スポーツ障害の病態とストレッチングを用いた理学療法的アプローチ
14	まとめ（高齢者の骨折・肩関節周囲炎・胸郭出口症候群・関節リウマチ・スポーツ）
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 神経障害理学療法学 ）

学科名 理学療法科

学年 2年

1 授業の概要

神経障害を呈する疾患の基本的な評価・治療を学び、理学療法の統合と解釈を学ぶ。

2 到達目標

検査測定、理学療法評価、神経内科学の知識を統合して、神経障害を呈する疾患の理学療法が実施できる。病態・評価・統合と解釈・訓練プログラムの立案を自ら考えることができる。

3 授業の方法

座学と板書を通して授業を実施していきます。教科書で学び自分で調べる。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

試験内容は、病態・評価・統合と解釈・訓練プログラムの立案を問う問題で、自分の考えを記載する。

6 授業時間外学習

授業で学んだ内容を理解し、教科で関連知識を調べる。

7 使用教材，教具

老人のリハビリテーション（第8版）医学書院

8 学生へのメッセージ

神経障害を呈する理学療法は、理学療法対象疾患のうちの1つで最も臨床現場で遭遇する疾患です。臨床実習を見据えて、自ら学ぶ姿勢で授業に臨んでください。

9 教員氏名（ 笹原 順哉 ）

所 属（ 社会医療法人春回会 長崎北病院 ）

実務経験の詳細（ 病院にて理学療法士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名(神経障害理学療法)

回数	授業内容
1	脳卒中理学療法（総論）
2	脳卒中理学療法（各論）
3	脳性麻痺理学療法（総論）
4	脳性麻痺理学療法（各論）
5	パーキンソン病・症候群（総論）
6	パーキンソン病・症候群（各論）
7	筋ジストロフィー理学療法（総論）
8	筋ジストロフィー理学療法（各論）
9	ギランバレー症候群（総論）
10	ギランバレー症候群（各論）
11	二分脊椎理学療法（総論）
12	二分脊椎理学療法（各論）
13	末梢神経損傷（総論）
14	末梢神経損傷（各論）
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 内部障害理学療法学 ）

学科名 理学療法 科
学年 2 年

1 授業の内容

中泊：循環器疾患の身体所見・画像所見・病態の理解を中心に講義する。

三根：呼吸器障害の身体所見・画像所見・病態・理学療法を中心に講義する。

2 到達目標

内部疾患患者に対し治療・訓練を実施する際の身体所見と病態を理解する。

3 授業の方法

PC プロジェクターを利用した教材，教科書を使用した講義。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

授業態度，質問の返答など積極性等も重視します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

シラバスに沿って事前に授業で行われる内容は予習をしておくように。

授業ごとの復習を行い，演習を意識した学習をするように。

7 使用教材，教具

シンプル理学療法シリーズ「内部障害理学療法学テキスト」（改訂第3版）南江堂

8 学生へのメッセージ

内部疾患を持つ患者は増加しています。病態を理解して運動療法プログラムが作成できるように頑張しましょう。

9 教員氏名 （ 中泊 理美，三根 立己 ）

所 属 （ 中泊：虹ヶ丘病院 ）

（ 三根：こころ医療福祉専門学校 理学療法科 ）

実務経験の詳細 （ 両名ともが病院にて理学療法士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名(内部障害理学療法)

回数	授業内容
1	内部障害理学療法概論（リスク管理）
2	内部障害に必要な解剖学・生理学
3	身体症状と検査（理学療法評価）
4	身体所見（レントゲン・理学療法評価の実際）
5	病態の理解（心筋梗塞）
6	病態の理解（狭心症・心不全）
7	病態の理解（閉塞性動脈硬化症・心臓弁膜症）
8	呼吸理学療法の概論
9	呼吸リハビリテーション（コンディショニング）
10	呼吸リハビリテーション（運動療法・ADL）
11	疾患について（COPD、間質性肺炎等）
12	感染予防策
13	代表的な呼吸器疾患の理学療法
14	代謝障害の理学療法
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 小児理学療法学 ）

学科名 理学療法 科

学年 2 年

1 授業の内容

脳性麻痺などの発達障害を中心に小児整形疾患に対する理解を深め、理学療法評価および運動療法の基礎的概念を概説する。発達については反射・反応・姿勢・運動などの変化の意味合いを理解し、認知や社会面などの発達との関連にも触れながら講義を進める。事例を通して、障害のある子供と家族に対する理学療法の役割を知る。また、小児疾患を取り巻く家庭環境、医療、福祉、教育、就労などの社会的側面にも触れ、理学療法を展開する上での課題を捉える視点を学ぶ。

2 到達目標

小児期の特徴および、正常発達を理解することを通し、障害が発達に及ぼす影響とそれに対する理学療法の目的と方法を理解する。小児に接するためのレディネス修得を目標にする。事例を通して、定型発達と発達障害を学習し、障害のある子供と家族に対して理学療法の役割を知る。

3 授業の方法

講義、実技演習を実施しつつ、技術の習得に努める。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

臨床像の把握、典型的な治療例については、画像、VTRなどの視聴覚教材を多用するため、動作分析や記録方法についてはあらかじめ復習しておくこと。

7 使用教材、教具

シンプル理学療法シリーズ 小児理学療法学テキスト 改訂第3版 南江堂

実習に必要な物品はその都度指示します。

8 学生へのメッセージ

小児領域は興味や関係が少ないと考えがちですが、地域医療の中では必ず必要になる知識です。また運動と発達との関係性を理解することで運動機能への理解が深まります。

9 教員氏名 (浦川 純二)
所 属 (長崎県立こども医療福祉センター)
実務経験の詳細 (病院にて理学療法士として勤務経験あり)

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (小児理学療法学)

回数	授業内容
1	小児理学療法総論
2	小児理学療法総論
3	運動発達 総論
4	運動発達 各論
5	運動発達に関連する反射・反応
6	脳性麻痺の障害像 総論
7	脳性麻痺の障害像 各論
8	脳性麻痺に対する理学療法評価 総論
9	脳性麻痺に対する理学療法評価 各論
10	脳性麻痺に対する理学療法 総論
11	脳性麻痺に対する理学療法 各論
12	脳性麻痺に対する理学療法 応用
13	その他の小児疾患に対する理学療法 総論
14	その他の小児疾患に対する理学療法 各論
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 地域イノベーション論 ）

学科名 理学療法 科

学年 2 年

1 授業の内容

イノベーション（革新）とは、「新しい技術やアイデアから社会的意義のある新たな価値を創造し、社会的に大きな変化をもたらす人・組織・社会の幅広い変革」である。地域における理学療法士の役割・実践を学び、グローバルな視点を養っていく。

2 到達目標

医療機関や介護保険事業所における理学療法士の役割に加えて、それらでは網羅できない地域ニーズに対応した理学療法士の諸活動を学び理解する。地域課題の抽出とその解決方法を検討するグループワークを行い、地域に根ざした理学療法士の新たな社会的意義やフィールド開拓といった先見性を養い、理解を深めることができる。

3 授業の方法

講義形式とグループワークを実施する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 70%，レポート 20%，授業態度 10%

5 評価の際の特記事項

理学療法士を取り巻く地域包括ケアシステムを理解する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業内容の復習を中心に知識を深めること。

7 用教材，教具

パソコン室の使用も予定しております。

8 学生へのメッセージ

すでに理学療法の職域は医療や介護の一端ではなく、産業保健や保険外診療、スポーツクラブ等へと拡大しています。そういった背景には、その分野に理学療法士の知識や技能が求められたからです。私達の生活圏においても、まだまだ理学療法士が活躍できる分野があると思います。本講義を通じて理学療法の視野を広げ、新しい理学療法の世界と一緒に創造していきましょう。

9 教員氏名（ 高沢浩太郎 ）

所 属（ 真珠園療養所 ）

実務経験の詳細（ 病院にて理学療法士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 地域イノベーション論 ）

回数	授業内容
1	地域イノベーションについて
2	地域課題の抽出とその解決について
3	スポーツ分野における理学療法
4	障がい児療育における理学療法
5	保険外リハビリテーションにおける理学療法
6	産業保健分野における理学療法 (1)
7	産業保健分野における理学療法 (2)
8	災害時支援における理学療法・動物に対する理学療法
9	国際協力における理学療法
10	地域づくりと理学療法 グループワーク (1)
11	地域づくりと理学療法 グループワーク (2)
12	地域づくりと理学療法 グループワーク (3)
13	地域づくりと理学療法 グループワーク (4)
14	まとめ
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床実習Ⅲ ）

学科名 理学療法科
学年 2 年

1 授業の内容

病院・クリニック・施設において、実習教育者の教育のもと患者・利用者とかかわり、学内で学んだ知識・技術を実践する。

2 到達目標

- (1) 専門職としての適性およびふさわしい態度を身につけることができるようになる。
- (2) 対象者本人および他部門からの情報収集ができるようになる。
- (3) 安全性とリスク管理に配慮できるようになる。
- (4) 対象者に即した検査・測定方法を選択し、実施することができるようになる。
- (5) 情報収集・検査・測定の結果を適切に記録し、内容に信頼性を持たせることができるようになる。
- (6) 得られた情報から問題点を抽出し、統合と解釈を行うことができるようになる。
- (7) 治療目標（ゴール）を設定することができるようになる。
- (8) 治療方法（理学療法プログラム）について立案することができるようになる。
- (9) 理学療法関連業務を経験する。
- (10) 理学療法経過記録の作成、報告を経験する。

3 授業の方法

臨床実習現場にて実習を展開する。実習状況は実習教育者と連絡を取り進めていく。
なお、実習地に専任教員が訪問し実習状況を確認する。

4 成績評価方法

実習規定終了 60%・課題・学習記録 20%・実習経験シート 20%

5 評価の際の特記事項

既定の実習終了で 60 点・課題・学習記録 20%・実習経験シート 20%
臨床実習教育者のコメントを考慮して学科内で評価します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

デイリーノート・実習教育者の課題・理学療法評価学・関節可動域訓練・徒手筋力検査法・理学療法治療学

7 使用教材，教具

特に指定なし

8 学生へのメッセージ

理学療法士になるための総仕上げです。自ら学ぶ姿勢を持ち、謙虚に教育を受けて理学療法士としてのやりがいを感じてきてください。

9 教員氏名（ 三根 立己 ）

所 属（ ところ医療福祉専門学校 理学療法科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床実習Ⅲ）

回数	授業内容
	【実習期間】
	2年前期（1月～3月の期間で8週間）
	【実習時間】
	1週間45時間（実習地：8時間×5日＋自宅学修：1時間×5日）
	合計8週間360時間（45時間×8週）
	【実習場所】
	学校にて各学生を実習地に配置する

シラバス（授業計画書）

科目名（ 運動処方の実際（水泳） ）

学科名 理学療法 科

学年 2 年

1 授業の内容

健康運動実践指導者養成用テキスト第8章（水泳・水中運動）を学習します。
実際にプールを使用し実技も行います

2 到達目標

実技を通して水泳・水中運動の特性について理解する。
指導実技試験の評価表に基づいた評価において、合格レベルに達することを目標とします

3 授業の方法

講義およびプールを使用した実技を行う。

4 成績評価方法・基準

実技の実演指導を見て、判断します。

5 評価の際の特記事項

出席状況も含みます

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

テキストの学習範囲となっている部分を読むことをお勧めします

7 使用教材，教具

主に健康運動実践指導者養成用テキストを使用し，適宜資料配付します

8 学生へのメッセージ

実際にプールを使用して実技を行います。
健康運動実践指導者では指導実技試験も行われますので，実際の試験評価表に基づいて実践的な練習を行います

9 教員氏名 （ 川原洋一 ）

所 属 （ ころろ医療福祉専門学校 理学療法科 ）

実務経験の詳細 （ 病院にて理学療法士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 運動処方の実際（水泳） ）

回数	授業内容		
1	第8章	水泳・水中運動	水泳・水中運動の実際
2	第8章	水泳・水中運動	各水中レジスタンスエクササイズ個別練習
3	第8章	水泳・水中運動	各水中ウォーキング個別練習
4	第8章	水泳・水中運動	指導実技グループ練習
5	第8章	水泳・水中運動	プールで指導実技通し練習
6	第8章	水泳・水中運動	プールで指導実技評価

シラバス（授業計画書）

科目名（ コンピュータ演習 ）

学科名 理学療法科

学年 1年

1 授業の内容

コンピュータ演習の前半では、プレゼンテーションなどで使用される「PowerPoint」を使用し、課題を設定した資料作成（社会人として習得しておくべき、パワーポイント）の制作スキルを学びます。また、後半では、Wordでの表やグラフ作成のなどを用いて、症例事例の作成やExcelとの連携についても学習します。

2 到達目標

アプリケーションの機能概要（操作）の理解と画面操作のみではなく、ショートカットキーの同時使用で、作業の効率化が出来る。また、プレゼンや報告書の制作スキルを習得します。

3 授業の方法

PC室において、講師用PCをプロジェクターに写し、捜査方法を同時に行いながら、修得します。又、各章毎に練習問題を実施し、回答を行いながら修得します。

4 成績評価方法・基準

定期試験 → 70%

授業態度 → 30%

5 評価の際の特記事項

授業態度は、授業や課題への取り組みや出欠を含めて総合的に判断します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って講義を行います。また、PC室の空き時間は自由にPCが使用可能である為、事前に教科書の予習・復習をしてくること。

7 使用教材，教具

「よくわかる Microsoft Word 2019 & Microsoft Excel 2019 & Microsoft PowerPoint 2019」
(FOM 出版)

8 学生へのメッセージ

ビジネス業界で必ず必要となる「文書作成や表計算」をMicrosoft社の「Office2019」を使用して基礎から学習します。今回はWord, Excel, PowerPointを基礎から学習し、事例演習の症例レポート作成まで行います。臨床実習でも役立ててください。

9 教員氏名（ 家富浩人 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 ）

10 特記事項

実務経験のある常勤教員による授業科目

科目名（ コンピュータ演習 ）

回数	授業内容
1	PC や外部装置(USB 等)の説明やアプリケーション (Office2019) の全体説明
2	Word 基礎知識
3	Word グラフィック機能
4	Word ワードでの表作成
5	Word 症例レポートの実例作成 (A : レジメー 1)
6	Word 症例レポートの実例作成 (A : レジメー 2)
7	Word 症例レポートの実例作成 (B : 症例レポートー 1)
8	Word 症例レポートの実例作成 (B : 症例レポートー 2)
9	Word 症例レポートの実例作成 (C : 解説)
10	Excel 基礎知識
11	Excel 表やグラフの作成
12	Word・Excel アプリケーション間でのデータ共有
13	PowerPoint 基礎知識
14	PowerPoint プレゼンテーション作成
15	定期試験
16	答案返却及び解説 授業の進捗度・理解度等により順序が変更する場合もある。

シラバス（授業計画書）

科目名（ 医学英語 ）

学科名 理学療法科

学年 1年

1 授業の内容

医療人として英語能力は大切です。まずは、医学英単語を中心に学び、簡単な英語論文の読解まで広げていきたいと思います。

また、近年リハビリテーション分野でも修士・博士課程の大学院進学を希望する理学療法士が増えております。それらの大学院入学を見据えた英文読解能力の基礎を養います。

2 到達目標

- ・ リハビリテーションにおける医学英単語を習得する。
- ・ 英語論文（抄録）を読んで、その概略を理解することができる。
- ・

3 授業の方法

講義形式とグループワーク

4 成績評価方法・基準

定期試験 70% 小テスト 20% 授業態度 10%

5 評価の際の特記事項

授業態度は、積極的な質問，グループワークでの積極的参加を評価します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書や授業で配布する資料の予習・復習により，知識の定着を促してほしい。

7 使用教材，教具

河合良訓・原島広至著：肉単（語源から覚える解剖学英単語集），エヌ・ティー・エス
丸善雄松堂株式会社

8 学生へのメッセージ

まずは一見難しそうな医学英語に慣れることから始めましょう。人体や病気に関する英単語を覚えることで，ある程度の医学英文の文意はつかめてくると思います。

9 教員氏名（ 高沢浩太郎 ）

所 属（ 真珠園療養所 ）

実務経験の詳細 （ 病院にて理学療法士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 医学英語 ）

回数	授業内容
1	医学英語の必要性について
2	リハビリテーション関連の医学英語 (1)
3	リハビリテーション関連の医学英語 (2)
4	リハビリテーション関連の医学英語 (3)
5	英語で理解する病気とリハビリテーション (1)
6	英語で理解する病気とリハビリテーション (2)
7	英語で理解する人体の構造 上肢帯 (1)
8	英語で理解する人体の構造 上肢帯 (2)
9	英語で理解する人体の構造 体幹 (1)
10	英語で理解する人体の構造 体幹 (2)
11	英語で理解する人体の構造 下肢 (1)
12	英語で理解する人体の構造 下肢 (2)
13	医学論文（抄録）を読みましょう。 「理学療法学」から抽出
14	医学英語の復習・まとめ リハビリテーションや解剖学に関連した単語の復習
15	定期試験
16	答案返却，解説

シラバス（授業計画書）

科目名（人間発達学）

学科名 理学療法科

学年 1 年

1 授業の内容

稲田：小児の発達検査、姿勢反射反応、正常発達についての理解を深める。

前田：人は、受精卵から胎芽・胎児を経て出生し、成人となるまで発達し、やがて老年期を迎える。ヒトは一人ひとり（子どもを含めて）個性的でユニークな存在であるが、まずは標準的な発達を学び理解することが必要である。

2 到達目標

稲田：各種発達検査の種類や内容、目的を把握する。また姿勢反射・反応の意味、出現・統合の時期を知り、反応を把握する。また0歳（胎児期を含む）～5・6歳頃までの運動発達に個人差があることなどを知る。

前田：ヒトの発達段階を理解できる。

3 授業の方法

稲田：ビデオ、スライド等を用い、教科書に沿って講義する。

前田：動画やスライド資料を用いて授業を進めていく。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80% 授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

聴講態度も含め総合的に評価の対象とします。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

予定範囲の教科書を読んでおく。

7 使用教材、教具

イラストでわかる人間発達学 医歯薬出版会社

8 学生へのメッセージ

稲田：静止画、動画を用いてイメージしやすい授業にしたいと思います。人間の発達は個々、様々であり、不思議で奥深い分野です。とても楽しい分野だと思いますので一緒に頑張りましょう。

前田：成人期の臨床希望であっても、ヒトは一生発達を続けることから発達を学ぶことは大切です。

- 9 教員氏名 (稲田 佳奈子, 前田 隼)
 所 属 稲田：長崎市障害福祉センター理学療法士
 前田：長崎県立こども医療福祉センター
 実務経験の詳細 稲田：医療機関にて理学療法士として勤務経験あり
 前田：医療機関にて理学療法士として勤務経験あり

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (人間発達学)

回数	授業内容
1	人間発達期の区分など
2	発達理論とは
3	小児期、青年期、成人期、老年期における特徴
4	精神発達①
5	精神発達②
6	各期における特徴および精神発達の国家試験問題解説
7	胎内～2ヶ月（生後）の発達について
8	2ヶ月～4か月の発達について
9	4ヶ月～6ヶ月の発達について
10	6ヶ月～8ヶ月の発達について
11	8ヶ月～10ヶ月の発達について
12	10ヶ月～1歳の発達について
13	1歳～幼児期の発達について
14	発達段階における国家試験問題解説
15	定期試験
16	答案返却および解答解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 障害者スポーツ概論Ⅰ ）

学科名 理学療法科

学年 1年

1 授業の内容

障害者スポーツ指導員の資格の取得のみならず、地域社会で活躍できる人材となるべく障がい者スポーツと社会福祉について学ぶ。実技・演習を通じて障害者に対する援助法や地域社会でどのようなことが求められているのか考え実践できるように授業を展開していきます。

2 到達目標

- ・障がい者スポーツ指導員資格取得
- ・理学療法士として実習の場としてとらえ障害者の援助法を学び実践する
- ・地域社会での理学療法の職域について理解し深化することができる

3 授業の方法

障がい者指導者教本を使用し、障がい者に対する援助法・関連知識を座学で学び、現場にて実践活動を行う。

4 成績評価方法・基準

レポート：60％ 実践態度：40％

5 評価の際の特記事項

授業レポート・実践参加レポートの内容にて評価する。

特に現場実践での資質にかかわる部分を高く評価する。

障がい者スポーツ指導員（初級）の互換科目であり、原則欠席を認めない。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

レポート作成に力を注ぐように

7 使用教材，教具

“障がいのある人のスポーツ指導教本（初級・中級）2021年改訂カリキュラム対応”
ぎょうせい

8 学生へのメッセージ

障がい者スポーツ指導員として即戦力として活躍できる人材になる意識を持ってください。一緒活動しましょう。

9 教員氏名（ 大石勝規 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 理学療法科 ）

実務経験の詳細（ 病院にて理学療法士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 障害者スポーツ概論Ⅰ ）

回数	授業内容	互換（障がい者スポーツ指導員）
1	コミュニケーションスキル（自己紹介・他己紹介）	「コミュニケーションスキルの基礎」
2	スポーツ指導者に求められるもの：ボランティア論	「スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質」
3	自己肯定感・自己効力感・援助方法論	「コミュニケーションスキルの基礎」
4	障害者福祉施策（障害者総合支援法について）	「障がい者スポーツに関する諸施策」
5	障害者スポーツの紹介（地域での障害者スポーツ）	「障がい者スポーツ推進の取り組み」
6	理学療法士が関わる領域におけるボランティア 障害者スポーツボランティア	「障がい者スポーツの意義と理念」
7	障がい者スポーツの意義と理念、日本障がい者スポーツ協会のビジョン	「障がい者スポーツの意義と理念」
8	障がい者スポーツ体験（ボッチャ）	「障害に応じたスポーツの工夫・実施（実技）」
9	障害に応じたスポーツの工夫・実施（肢体不自由、聴覚・視覚障害）	「障害に応じたスポーツの工夫・実施（実技）」
10	障害に応じたスポーツの工夫・実施（内部障害、難病、小児疾患、その他）	「障害に応じたスポーツの工夫・実施（実技）」
11	障がい者スポーツ指導者制度について	「障がい者スポーツに関する諸施策」
12	全国障害者スポーツ大会の概要	「全国障害者スポーツ大会の概要」
13	身体と障害（身体障害・内部障害）総論	「各障がいの理解」
14	障がい者とスポーツ・レクリエーション（知的・精神）総論	「各障がいの理解」
15	障がい者スポーツ指導員の役割と未来	「スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質」

シラバス（授業計画書）

科目名（ 障害者スポーツ概論Ⅱ ）

学科名 理学療法科

学年 1 年

1 授業の内容

障害者スポーツ指導員の資格の取得のみならず、地域社会で活躍できる人材となるべく障がい者スポーツと社会福祉について学ぶ。実技・演習を通じて障害者に対する援助法や地域社会でどのようなことが求められているのか考え実践できるように授業を展開していきます。

2 到達目標

- ・障がい者スポーツ指導員資格取得
- ・理学療法士として実習の場としてとらえ障害者の援助法を学び実践する
- ・地域社会での理学療法の職域について理解し深化することができる

3 授業の方法

障がい者指導者教本を使用し、障がい者に対する援助法・関連知識を座学で学び、現場にて実践活動を行う。

4 成績評価方法・基準

レポート：60％ 実践態度：40％

5 評価の際の特記事項

授業レポート・実践参加レポートの内容にて評価する。

特に現場実践での資質にかかわる部分を高く評価する。

障がい者スポーツ指導員（初級）の互換科目であり、原則欠席を認めない。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

レポート作成に力を注ぐように

7 使用教材，教具

“障がいのある人のスポーツ指導教本（初級・中級）2021年改訂カリキュラム対応”
ぎょうせい

8 学生へのメッセージ

障がい者スポーツ指導員として即戦力として活躍できる人材になる意識を持ってください。一緒活動しましょう。

9 教員氏名（ 大石 勝規 ）
所 属（ こころ医療福祉専門学校 理学療法科 ）

教員氏名（ 城戸 修一 ）
所 属（ 社会福祉法人 ウィキャンサポート、社会福祉士 ）

10 特記事項

通常教員による授業および上記施設にて実務者を経験。実務経験者による授業。

科目名（ 障害者スポーツ概論Ⅱ ）

回数	授業内容	互換（障がい者スポーツ指導員）
1	身体障害者の歴史（身体障害者の特性とその支援） 城戸修一	
2	障害者虐待についてのその対策と支援、アンガーマネージメントについて 城戸修一	「スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質」
3	障害福祉センターの説明、スポーツ紹介 城戸修一	
4	施設見学（スポーツレクを体験しよう①） 城戸修一	「障がいのある人との交流」
5	施設見学（スポーツレクを体験しよう②） 城戸修一	「障がいのある人との交流」
6	精神障害者の特性とその支援 城戸修一	「各障がいの理解」
7	知的障害者の特性とその支援 城戸修一	「各障がいの理解」
8	障害者各論（身体障がい内部障害） 大石勝規	「各障がいの理解」
9	障害者各論（視覚障がい・聴覚・音声障がい） 大石勝規	「各障がいの理解」
10	障害者各論（脳性麻痺） 大石勝規	「各障がいの理解」
11	障害者各論（脊髄損傷） 大石勝規	「各障がいの理解」
12	障がいの分類と概要・クラス分け・障害区分 大石勝規	「各障がいの理解」
13	補装具（義肢・装具・車いす・用具） 大石勝規	各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫」
14	障がい者スポーツ指導援助計画 大石勝規	「障がい者スポーツ推進の取り組み」
15	安全管理・救急法 大石勝規	「安全管理」

シラバス（授業計画書）

科目名（生活環境論）

学科名 理学療法 科

学年 1 年

1 授業の内容

福祉住環境の中でも特に、理学療法士にとって必要な住環境整備として建物の構造や特徴、そして代表的な疾患に対してどのように対応して行くのかを学ぶ。

2 到達目標

建物の構造を理解し、住宅改修や福祉用具の設置の原則を理解する。

3 授業の方法

教科書に準じた内容で実施する。内容に応じてプリントやパワーポイントを使用する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

授業態度は、質問の返答、グループワークの積極性等を総合的に評価します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

福祉住環境コーディネーター2級の資格取得は卒業認定の一つとなっています。そのため、授業内容の理解度を深めるために、予習・復習を着実にを行い、資格取得につなげていきましょう。

7 使用教材、教具

渡辺光子 著：福祉住環境コーディネーター2級. 短期合格テキスト 日本能率協会マネージメントセンター

8 学生へのメッセージ

退院後の生活を見据えて、自宅環境を整えるための知識になります。長く、安心して患者様や家族が暮らせる自宅環境を提案することも理学療法士の仕事の一つです。患者様の身体を整えるとともに自宅環境も整えていきましょう。

9 教員氏名（三根 立己）

所属（こころ医療福祉専門学校 理学療法科）

実務経験の詳細（病院にて勤務理学療法士として勤務経験あり）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名(生活環境論)

回数	授業内容
1	高齢者・障害者を取り巻く社会状況と住環境
2	福祉住環境コーディネーターの役割と機能
3	障害のとらえ方
4	リハビリテーションと自立支援
5	高齢者・障害者の心身の特性
6	在宅介護での自立支援のあり方
7	高齢者に多い疾患別にみた福祉住環境整備
8	障害別にみた福祉住環境整備
9	福祉住環境整備とケアマネジメント
10	福祉住環境整備の進め方
11	福祉住環境整備関連職への理解と連携
12	相談援助の実践的な進め方
13	福祉住環境整備の共通基本技術
14	生活行為別福祉住環境整備の手法，福祉住環境整備の実践に必要な基礎知識
15	定期試験
16	答案返却及び解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 解剖・生理Ⅰ 骨・筋 ）

学科名 理学療法 科

学年 1 年

1 授業の内容

人体の基本的な構造と機能に関して、骨格系、筋などの器官系統ごとに学習し、リハビリテーションの基礎となる解剖生理学に関する理解を深める。

2 到達目標

人体の基本的生理機能について、器官系統ごとに説明することができる。

3 授業の方法

授業前に配布資料を渡します。

4 成績評価方法・基準

定期試験 60% 小テスト 40%

5 評価の際の特記事項

定期試験は、国家試験形式で出題する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書を事前に読み進め、配布した資料で復習していくこと。

7 使用教材、教具

標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第5版, 医学書院

8 学生へのメッセージ

授業で理解できなかった内容は、必ず理解できるまで質問・学習すること。また、教科書をしっかり読むことを習慣にしてください。

9 教員氏名（ 村田 潤 ）

所 属（ 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 ）

実務経験の詳細（ 病院にて作業療法士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 解剖・生理Ⅰ 骨・筋 ）

回数	授業内容
1	解剖生理学総論（人体の構成要素としての細胞，組織，器官，器官系）
2	細胞の構造と機能
3	組織とその分類「器官をつくる4大組織とその特徴」
4	細胞の興奮と情報伝達 1
5	細胞の興奮と情報伝達 2
6	人体の発生、発育、老化
7	小テスト 解説
8	骨格系（骨の構造）
9	頭部の骨
10	脊柱，胸郭
11	小テスト 解説
12	上肢帯と下肢帯の骨
13	関節と靭帯 1
14	関節と靭帯 2
15	小テスト 解説
16	筋系（筋の構造）
17	頭頸部の筋
18	体幹の筋
19	上肢の筋
20	下肢の筋
21	小テスト 解説
22	骨格筋の構造（筋線維の分類）
23	筋収縮のメカニズム
24	筋収縮の力学的特性，筋収縮のエネルギー
25	内臓筋（心筋と平滑筋）
26	運動単位と神経支配比，運動トレーニング（筋肥大）
27	小テスト 解説
28	まとめ
29	定期試験
30	答案返却，解説
31	答案返却，解説，講義総括

シラバス（授業計画書）

科目名（ 解剖・生理Ⅰ演習 骨・筋 ）

学科名 理学療法 科

学年 1 年

1 授業の内容

人体の基本的な構造と機能に関して、骨格系、筋などの器官系統ごとに学習し、リハビリテーションの基礎となる解剖生理学に関する理解を深める。また、国家試験に向けて、まとめノートを作成し、項目ごとにまとめる。

2 到達目標

国家試験に向けてまとめノートを作成すること。国家試験過去問題を解き、傾向を押さえつつ、過去問に対応できる勉強方法を身に付けること。

3 授業の方法

解剖・生理Ⅰ（骨・筋）の授業範囲内のまとめノート作成を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 60% 小テスト 20% レポート（まとめノート） 20%

5 評価の際の特記事項

小テスト・定期試験は、国家試験過去問題から出題する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書を事前に読み進め、配布した資料で復習していくこと。

7 使用教材、教具

<教科書> 標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第5版, 医学書院

<参考図書> メディックメディア：クエスチョン・バンク 2020 共通問題

<資料>解剖・生理学Ⅰ 村田潤先生の配布資料

8 学生へのメッセージ

授業で理解できなかった内容は、必ず理解できるまで質問・学習すること。また、教科書をしっかり読むことを習慣にしてください。

9 教員氏名 （ 川原洋一 松本真一郎 山口浩司 ）

所 属 （ こころ医療福祉専門学校 理学療法科 ）

実務経験の詳細（ 全ての教員が病院にて理学療法士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 解剖・生理Ⅰ演習 骨・筋 ）

回数	授業内容
1	解剖生理学総論（まとめノート作成方法）
2	細胞の構造と機能
3	組織とその分類「器官をつくる4大組織とその特徴」
4	細胞の興奮と情報伝達 1
5	細胞の興奮と情報伝達 2
6	人体の発生
7	小テスト 解説
8	骨格系（骨の構造）
9	頭部の骨
10	脊柱，胸郭
11	小テスト 解説
12	上肢帯と下肢帯の骨
13	関節と靭帯 1
14	関節と靭帯 2
15	小テスト 解説
16	筋系（筋の構造）
17	頭頸部の筋
18	体幹の筋
19	上肢の筋
20	下肢の筋
21	小テスト 解説
22	骨格筋の構造（筋線維の分類）
23	筋収縮のメカニズム
24	筋収縮の力学的特性，筋収縮のエネルギー
25	内臓筋（心筋と平滑筋），運動単位と神経支配比，運動トレーニング（筋肥大）
26	まとめ（骨・筋・靭帯）
27	まとめ（骨・筋・靭帯）
28	国家試験過去問題
29	定期試験 まとめノート提出
30	答案返却・解説
31	答案返却・解説・講義総括

シラバス（授業計画書）

科目名（ 解剖・生理Ⅱ 神経 ）

学科名 理学療法 科

学年 1 年

1 授業の内容

人体の基本的な構造と機能に関して、神経、感覚などの器官系統ごとに学習し、リハビリテーションの基礎となる解剖生理学に関する理解を深める。

2 到達目標

人体の基本的生理機能について、器官系統ごとに説明することができる。

3 授業の方法

授業前に配布資料を渡します。

4 成績評価方法・基準

定期試験 60% 小テスト 40%

5 評価の際の特記事項

定期試験は、国家試験形式で出題する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書を事前に読み進め、配布した資料で復習していくこと。

7 使用教材、教具

<教科書>

病気がみえる 脳・神経 vol.7, MEDIC MEDIA

8 学生へのメッセージ

授業で理解できなかった内容は、必ず理解できるまで質問・学習すること。また、教科書をしっかり読むことを習慣にしてください。

9 教員氏名 （ 村田 潤 ）

所 属 （ 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 ）

実務経験の詳細（ 病院にて作業療法士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 解剖・生理Ⅱ 神経 ）

回数	授業内容
1	神経の構造，神経系の構成
2	末梢神経系（体性神経）総論
3	末梢神経系（体性神経）各論
4	末梢神経系（体性神経）まとめ
5	末梢神経系（脳神経）
6	末梢神経系（自律神経）
7	小テスト 解説
8	骨格筋の神経支配
9	脊髄の構造と機能
10	脳幹部の構造と機能
11	間脳の構造と機能
12	小テスト 解説
13	小脳の構造と機能
14	間脳の構造と機能
15	大脳基底核の構造と機能
16	大脳皮質の構造
17	大脳皮質の機能
18	小テスト 解説
19	感覚器系の構成と性質
20	皮膚の構造と知覚，筋の感覚
21	視覚器の構造
22	視覚器の機能
23	聴覚・平衡覚器の構造
24	聴覚・平衡覚器の機能
25	味覚器の構造
26	味覚器の機能
27	嗅覚器の構造と機能
28	小テスト 解説
29	定期試験
30	答案返却，解説
31	答案返却，解説，講義総括

シラバス(授業計画書)

科目名(解剖・生理Ⅱ演習 神経)

学科名 理学療法科
学年 1年

1. 授業の概要

人体の基本的な構造と機能の理解は、リハビリテーションの基礎となります。神経、感覚などの器官系統ごとに学習内容を再確認して理解を深めることできるように、解剖生理学の授業の補足と問題演習を中心に授業を展開していきます。

2. 到達目標

解剖生理学Ⅱ神経の講義で学習した内容を復習し、用語を覚えて、それがどのような意味、機能があるのかを把握する。

3 授業の方法

解剖・生理学の授業と並行して補習や問題演習を行っていきます。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

授業内で実施する問題演習を中心に定期試験を出題します。

6 授業時間外学習

解剖生理学の授業の進度に合わせて進めるので、解剖生理学の復習をするように。

問題演習プリントは毎回復習し、各自で弱点の克服をするように。

7 使用教材、教具

病気がみえる 脳・神経 vol.7, MEDIC MEDIA

標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第5版, 医学書院

解剖・生理学Ⅱ村田潤先生の配布資料

8 学生へのメッセージ

初めて学習する用語が多く出てきますので、まずは丁寧に授業の内容を押さえるようにしましょう。解剖・生理は理学療法士を目指すうえでの基礎であり、重要な科目になります。

9 教員氏名 (三根立己 松本真一郎 山口浩司)

所 属 (ころ医療福祉専門学校 理学療法科)

実務経験の詳細 (全ての教員が病院にて理学療法士として勤務経験あり)

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名(解剖・生理Ⅱ演習 神経)

回数	授業内容
1	神経の構造，神経系の構成
2	末梢神経系（体性神経）総論
3	末梢神経系（体性神経）各論
4	末梢神経系（体性神経）まとめ
5	末梢神経系（脳神経）
6	末梢神経系（自律神経）
7	まとめ①
8	骨格筋の神経支配
9	脊髄の構造と機能
10	脳幹部の構造と機能
11	間脳の構造と機能
12	まとめ②
13	小脳の構造と機能
14	間脳の構造と機能
15	大脳基底核の構造と機能
16	大脳皮質の構造
17	大脳皮質の機能
18	まとめ③
19	感覚器系の構成と性質
20	皮膚の構造と知覚，筋の感覚
21	視覚器の構造
22	視覚器の機能
23	聴覚・平衡覚器の構造
24	聴覚・平衡覚器の機能
25	味覚器の構造
26	味覚器の機能
27	嗅覚器の構造と機能
28	まとめ④
29	定期試験
30	答案返却，解説
31	答案返却，解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 解剖・生理Ⅲ 内臓諸器官 ）

学科名 理学療法 科

学年 1 年

1 授業の内容

人体の基本的な構造と機能に関して、循環、呼吸、体液、腎、消化、内分泌、生殖器などの器官系統ごとに学習し、リハビリテーションの基礎となる解剖生理学に関する理解を深める。

2 到達目標

人体の基本的生理機能について、器官系統ごとに説明することができる。

3 授業の方法

授業前に配布資料を渡します。

4 成績評価方法・基準

定期試験 60% 小テスト 40%

5 評価の際の特記事項

定期試験は、国家試験形式で出題する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書を事前に読み進め、配布した資料で復習していくこと。

7 使用教材，教具

標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第5版，医学書院

8 学生へのメッセージ

授業で理解できなかった内容は、必ず理解できるまで質問・学習すること。また、教科書をしっかり読むことを習慣にしてください。

9 教員氏名 （ 村田 潤 ）

所 属 （ 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 ）

実務経験の詳細（ 病院にて作業療法士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 解剖・生理Ⅲ 内臓諸器官 ）

回数	授業内容
1	血液の組成と機能
2	免疫機能，止血機構
3	心臓の構造
4	心臓の機能
5	脈管系 総論
6	脈管系 各論
7	脈管系 まとめ
8	循環機能の調節
9	小テスト 解説
10	呼吸器の構造
11	呼吸運動の調節
12	呼吸ガスと血液ガス
13	腎臓の構造と機能
14	尿の生成，排尿
15	小テスト 解説
16	消化器の構造
17	消化と吸収 1（嚥下の調節，胃での消化）
18	消化と吸収 2（小腸・大腸での消化）
19	栄養と代謝Ⅰ（代謝，中間代謝）
20	栄養と代謝Ⅱ（エネルギー代謝）
21	小テスト 解説
22	内分泌系の機能 1（総論，視床下部のホルモン）
23	内分泌系の機能 2（下垂体・甲状腺のホルモン）
24	内分泌系の機能 3（副腎・膵臓・生殖腺のホルモン）
25	体温の調節 1（熱産生と熱放散）
26	体温の調節 2（体温調節機構）
27	生殖器
28	小テスト 解説
29	定期試験
30	試験解答，解説
31	試験解答，解説，講義総括

シラバス（授業計画書）

科目名（ 解剖生理Ⅲ演習（内臓諸器官） ）

学科名 理学療法科

学年 1 年

1 授業の内容

基礎3科目（解剖学、生理学、運動学）は、理学療法士になるために最も重要な学問といえます。基礎3科目の成績不振はその他の科目の講義や実技に多く影響を与えます。ほとんどの学生が解剖学、生理学は初めて学ぶ学問であるため解剖生理学の授業の補足と問題演習を中心に授業を展開していきます。

2 到達目標

- ・解剖生理学の学びの深化
- ・苦手意識を克服する
- ・学習習慣をつける

3 授業の方法

解剖・生理学の授業と並行して補習や問題演習を行っていきます。

4 成績評価方法・基準

定期試験100%

5 評価の際の特記事項

授業内で実施する問題演習を中心に定期試験を出題します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

解剖生理学の授業の進度に合わせて進めるので、解剖生理学の復習をするように。
問題演習プリントは毎回復習し、各自で弱点の克服をするように

7 使用教材、教具

標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第5版、医学書院
解剖・生理学Ⅲ村田潤先生の配布資料

8 学生へのメッセージ

基礎3科目は理学療法を志す者にとって幹となる学問です。疾患などを学んでいくうえでも必要な知識で、国家試験でも重要な科目になります。予習・復習を行いしっかりと知識の定着ができるように学習していきましょう。

9 教員氏名（ 三根立己 松本真一郎 山口浩司 ）

所 属 （ ころろ医療福祉専門学校 理学療法科 ）

実務経験の詳細（ 全ての教員が病院にて理学療法士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (解剖生理Ⅲ演習 (内臓諸器官))

回数	授業内容
1	血液の組成と機能
2	免疫機能, 止血機構
3	心臓の構造
4	心臓の機能
5	脈管系 1 総論
6	脈管系 2 各論
7	脈管系 3 全身
8	循環機能の調節
9	まとめ①
10	呼吸器の構造
11	呼吸運動の調節
12	呼吸ガスと血液ガス
13	腎臓の構造と機能
14	尿の生成, 排尿
15	まとめ②
16	消化器の構造
17	消化と吸収 1 (嚥下の調節, 胃での消化)
18	消化と吸収 2 (小腸・大腸での消化)
19	栄養と代謝 I (代謝, 中間代謝)
20	栄養と代謝 II (エネルギー代謝)
21	まとめ③
22	内分泌系の機能 1 (総論, 視床下部のホルモン)
23	内分泌系の機能 2 (下垂体・甲状腺のホルモン)
24	内分泌系の機能 3 (副腎・睪臓・生殖腺のホルモン)
25	体温の調節 1 (熱産生と熱放散)
26	体温の調節 2 (体温調節機構)
27	生殖器 1
28	生殖器 2
29	定期試験
30	答案返却, 解説
31	答案返却, 解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 運動学Ⅰ ）

学科名 理学療法科

学年 1 年

1 授業の内容

運動学は理学療法士が理学療法を行う上で基礎なる学問です。運動学Ⅰでは主に関節運動を力学的に学習します。そして運動学Ⅱで学ぶ関節運動から動作（基本動作・歩行）に繋がられるように基礎的なことを中心に学習します。

2 到達目標

- ・ 関節がどのように動くのか理解できる。
- ・ 運動を力学的に理解できる
- ・ 基本動作・歩行を理解できる

3 授業の方法

運動学の教科書をもとにプリント作成・PowerPoint で授業。
小テストは適宜実施します。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

授業の質問の返答、積極性なども重視します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

予習はシラバスに沿って基礎運動学の内容を読んでくる。
復習は授業資料・小テストなどの復習

7 使用教材，教具

基礎運動学 第6版 補訂 医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

運動学は理学療法士が理学療法を行う上で基礎となります。運動がどのように起こるのか頭で考えるだけでなく自分の身体を動かしながら理解するのが一番です。理学療法士は運動・動作の専門家です苦手意識を持たず興味を持って学びましょう。

9 教員氏名 （ 川原 洋一 ）

所 属 （ こころ医療福祉専門学校 理学療法科 ）

実務経験の詳細 （ 病院にて理学療法士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 運動学Ⅰ ）

回数	授業内容
1	運動学とは
2	運動方向・運動学的分析・筋力と重力・モーメント・運動法則・仕事エネルギー
3	身体とてこ・骨と関節運動・運動器の構造と機能
4	運動学基礎
5	上肢帯と上肢の運動（上肢帯・肩）
6	上肢帯と上肢の運動（肘・前腕）
7	上肢帯と上肢の運動（手・手指）
8	下肢帯と下肢の運動（股関節）
9	下肢帯と下肢の運動（膝関節）
10	下肢帯と下肢の運動（足関節）
11	体幹の運動（頭部・頸部）
12	体幹の運動（腰椎）
13	まとめ 上肢・体幹
14	まとめ 下肢
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 生化学と栄養 ）

学科名 理学療法 科

学年 1 年

1 授業の内容

三根：運動療法を行う、理学療法士としてリハ栄養の知識は必須事項になっています。疾患との栄養の関係や加齢に伴う栄養の重要性を理解し、理学療法が行えるようになります。

上島：患者に対し安全かつ効果的に理学療法を実施するためには、他の医療職が行う治療や処置についても理解する必要がある。中でも薬物療法は患者の大半が受けている治療であり、患者の体調や症状には多大な影響を与えている。そこで本授業では、医療現場で実際に使用されている薬剤や市販の一般用医薬品について、その作用機序や副作用、使用上の注意事項などに関して網羅的に概説する。

2 到達目標

三根：運動と栄養の関連を理解し、リハ栄養について簡単な説明ができるようになる。

上島：最初に作用様式、体内動態、法律など薬物に関する薬物についての全般的な基礎知識を理解する。それを踏まえた上で、疾病ごとに薬剤の作用機序、副作用、使用上の注意点を学習する。実際の理学療法時に、患者の使用薬剤を確認し、病状把握できること、体調変化に対しては薬の副作用に気づき医療者へ繋ぐ行動に結びつくことを到達目標とする。

3 授業の方法

三根：教科書、配布資料を用いて講義形式で行う。

上島：授業は基本的に科目担当者が作成した資料を用いて、講義形式で行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

適宜、レポートや小テストを実施します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

三根：予習はシラバスに提示された内容インターネット等で事前に調べてみてください。

復習は振り返りシートを課題にしますので次回の授業までに提出してください。

上島：幅広く膨大な情報を短時間に学ぶため、授業ではエッセンスを伝える内容にとどまってしまう。そのため、授業の前に教科書を一読し、大まかな内容を掴んでおいてください。

7 使用教材，教具

「リハベーシック生化学・栄養学」 医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

三根：理学療法士としてリハ栄養だけでなく、健康予防分野でも栄養学は役に立ちます。

理学療法士として栄養についてアプローチできる人材になってください。

上島：アゴの骨壊死、足の痙攣やふらつき、転倒の原因となる薬剤が存在します。特に高齢者は複数の医療機関を受診し、多くの薬剤を服用する傾向もあります。年齢を重ねるごとに薬物代謝機能が低下するため、継続中に薬でも副作用発現につながる可能性があります。実際に患者に接する理学療法士は、体調不良の原因が薬剤であることに気が付けば、副作用の第一発見者となる可能性があります。薬に関する正しい知識を習得し、患者の使用薬剤を常にチェックする習慣を身につけてほしいです。

9 教員氏名（ 三根立己 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 理学療法科 ）

教員氏名（ 上島 泰二 ）

所 属（ 長崎県薬剤師会 ）

10 特記事項

三根：実務経験のある教員による授業科目

上島：実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 生化学と栄養 ）

回数	授業内容	互換（障がい者スポーツ指導員）
1	リハビリテーションと栄養	
2	運動と栄養・栄養評価	
3	タンパク質とアミノ酸	
4	酵素・ホルモン・消化と吸収	
5	糖質・脂質の代謝・ビタミン	
6	主な病態の栄養管理	
7	静脈・経腸栄養法・栄養と摂食嚥下	
8	薬に関する基礎知識・ドーピング	「スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質」
9	中枢神経系に作用する薬物、末梢神経系に作用する薬物	
10	ホルモンと代謝障害治療薬、抗炎症薬と抗アレルギー薬	
11	循環器系に作用する薬物、血液・造血器官に作用する薬物	
12	呼吸器系に作用する薬物、消化器系に作用する薬物	
13	泌尿・生殖系に作用する薬物、ビタミン、抗感染症薬	
14	消毒液と皮膚・粘膜に作用する薬物、抗悪性腫瘍薬と免疫抑制薬	
15	定期試験	
16	答案返却および解説	

シラバス（授業計画書）

科目名（ リハビリテーション医学概論 ）

学科名 理学療法科

学年 1年

1 授業の内容

理学療法士に求められる疾患や身体機能についての評価やリハビリテーションの概要，専門的な講義の前に概要を説明して職業イメージをもってもらうことを目的とします．リハビリテーションの専門職としての理念や，運動療法，物理療法，福祉機器，各種検査機器などを総論的に理解し，チーム医療の一員として働く理学療法士像を共有したいと思います．

2 到達目標

- ・「リハビリテーションとは何なのか」の全体のあらすじが理解できることで，今後，卒業までに学ぶ各論や実習に対する事前準備（心構え）ができる．
- ・リハビリテーション医学概論の思想と体系，その具体的内容を理解し，リハビリテーション医学に従事する専門職としてのプロフェッショナリズムを考えることができる．

3 授業の方法

講義形式

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

講義内容をまとめるレポートや小テストを行うことがあります．

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書や授業で配布する資料の予習・復習により，知識の定着を促してほしい．

7 使用教材，教具

- ・教科書 PT・ビジュアルテキスト リハビリテーション医学 第1版 羊土社

8 学生へのメッセージ

各専門教科で学ぶことを整理する良い機会になると思います．広く浅くではありませんが，一つのことにとらわれず，広い範囲でリハビリテーションを再考してもらえよう準備をします．授業を通してインプットだけでなく，アウトプットできる姿勢が身につくよう期待します

9 教員氏名（ 大石勝規，小泉徹児，飯野朋彦 ）

所 属（ 大石：こころ医療福祉専門学校 ）

（ 小泉：十善会病院 ）

（ 飯野：介護老人保健施設にしきの里 ）

実務経験の詳細（ 全員が病院にて勤務理学療法士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ リハビリテーション医学概論 ）

回数	授業内容
1	リハビリテーション医学・医療の理念
2	障害、理学療法評価・マネジメントについて
3	心身機能・身体構造・行動変容について
4	活動・社会参加・背景因子(環境因子及び個人因子)について
5	チーム医療-多職種連携について
6	各ステージ（病期）における医療とその特徴
7	急性期におけるリスク管理
8	骨関節疾患（運動器疾患）のリハビリテーション
9	脳血管障害、内部障害のリハビリテーション
10	高齢者の評価
11	介護予防領域における高齢者のリハビリテーション
12	地域包括ケアシステムにおけるリハビリテーション
13	認知症のリハビリテーションについて
14	生活習慣病のリハビリテーションについて
15	定期試験
16	答案返却・解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 理学療法概論 ）

学科名 理学療法科

学年 1年

1 授業の内容

理学療法士を目指す学生にとって必要なリハビリテーションの基礎知識を習得します。それを具現化するためには、どのような方法があるのかを担当教員の実務経験を基に幅広く学びます。

2 到達目標

- ・理学療法に興味を持つ。
- ・リハビリテーションや理学療法の概念を理解する。
- ・フィールドワークを通して、バリアフリーやユニバーサルデザインの理解を深める。
- ・理学療法に関する研究活動に興味を持ち、どのような研究分野があるのか理解する。

3 授業の方法

講義形式とグループワーク

4 成績評価方法・基準

定期試験 70%，小テスト 20%，授業態度 10%

5 評価の際の特記事項

授業態度は、積極的な質問，グループワークでの積極的参加を評価します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書や授業で配布する資料の予習・復習により，知識の定着を促してほしい。

7 使用教材，教具

PT・OT ビジュアルテキスト リハビリテーション医学 第1版 羊土社

8 学生へのメッセージ

理学療法と一口にいてもその分野は多岐にわたります。その多様性を知ること、自分が将来活躍したい理学療法士像をイメージし、これからの学習への強いモチベーションとなってくれるような講義をしたいと考えております。

9 教員氏名（ 高沢浩太郎 ）

所 属（ 真珠園療養所 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 理学療法概論 ）

回数	授業内容
1	理学療法とは？ 歴史・定義・概要
2	理学療法と障害（1） 障害モデル ICIDH
3	理学療法と障害（2） 障害モデル ICF
4	理学療法の役割 領域と理学療法の対象
5	理学療法の流れ 理学療法の処方→評価，評価→問題点の抽出と目標設定
6	理学療法の使命と倫理 守秘義務と個人情報保護について
7	理学療法士の活躍の場 医療，保健・福祉，教育の現場
8	理学療法士の職能と関連する法律 JPTA について
9	リハビリテーションにおける QOL について
10	バリアフリーやユニバーサルデザインについて
11	理学療法研究とは？ （1） 研究の意義や発表方法について
12	理学療法研究とは？ （2） 実際に検査測定し，結果をまとめる
13	理学療法と報酬 医療保険，介護保険制度について
14	リスク管理，医療事故の防止（インシデント・アクシデント）について
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 日常生活動作学 ）

学科名 理学療法科 科

学年 1 年

1 授業の内容

リハビリテーション経過の時期ごとで、日常生活活動評価の意義が異なることを理解し、基本動作を種々の動作に分類して、介助・指導法を学習する。

2 到達目標

ADL における基本動作について理解し、種々の基本動作について説明することができる。
また、ADL 評価の意義を理解し、説明することができる。

3 授業の方法

グループワークにて講義・実技を行います。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

実技に関しては、学生同士でしっかり練習を行い、イメージをしっかり作ること。

7 使用教材，教具

日常生活活動学テキスト 改訂第3版：南江堂

8 学生へのメッセージ

演習を行う場合があるので、実習着を準備すること。

グループワークを通して、学びを共有してほしい。

9 教員氏名（ 岡 一 ）

所 属 （ 長崎北徳洲会病院 リハビリテーション科 ）

実務経験の詳細（ 病院にて理学療法士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 日常生活動作学 ）

回数	授業内容
1	総論（ADL の概念、ADL と QOL、ADL 練習と指導）
2	日常生活活動の動作分析の視点(動作観察と動作分析、身の回り動作の分析)
3	起居・移動動作(総論、起居・移動動作の役割)
4	起居動作(寝返り、起き上がり、坐位、立ち上がり)
5	床上移動動作(種類と目的、援助の方法)
6	歩行動作(ADL と歩行、歩行指導)
7	福祉関連機器と自助具、歩行補助具
8	基本動作総復習、片麻痺患者の ADL①
9	片麻痺患者の ADL②
10	片麻痺患者の ADL③（身の回り動作）
11	日常生活動作の評価と評価の実際
12	各種評価法(特徴、評価項目と尺度、注意点)
13	BI・FIM(特徴、評価項目と尺度、注意点)
14	総復習・まとめ
15	定期試験
16	答案返却・解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 検査測定法Ⅰ 関節 ）

学科名 理学療法 科

学年 1 年

1 授業の内容

理学療法士は対象者の全体像を把握するために情報収集、検査測定を実施する。本授業では、検査測定の基本技術として、関節可動域検査、形態測定、血圧測定を学習する。同時に、実技経験することで医療従事者として患者様に接する基本的な態度を学び、実践力を備えた人材へと成長を促す。

2 到達目標

- ・ 関節可動域検査の意義・目的を理解し、正確な実技と記録が可能となる。
- ・ 形態測定の意義・目的を理解し、正確な実技と記録が可能となる。
- ・ 血圧測定の意義・目的を理解し、正確な実技と考察が可能となる。

3 授業の方法

担当教員の実務経験をもとに実務に必要な知識・技術の習得を促す。主にPCプロジェクトを利用したパワーポイントによる講義を行う。実技室での授業は、白衣着用とする。検査測定セットを必ず毎回持参すること。

4 成績評価方法・基準

定期試験 60% 授業態度 40%

5 評価の際の特記事項

定期試験は、国家試験過去問題から出題します。授業態度は実技に取り組むや積極性、教示した内容の理解度・実践度などを総合的に評価します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

講義内容のまとめを適宜小テスト形式で実施することがあるので、予習および復習を徹底する。

7 使用教材、教具

松澤正. 江口勝彦著：理学療法評価学. 改訂第6版 金原出版株式会社

8 学生へのメッセージ

実技室での授業は、白衣着用とする。検査測定セットを必ず持参すること。実技ができるレベルになることと、国家試験問題に出題される基本的かつ実地的な知識を理解しましょう。

9 教員氏名 （ 大石 勝規 ）

所 属 （ こころ医療福祉専門学校 理学療法科 ）

実務経験の詳細（ 病院にて理学療法士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 検査測定法Ⅰ 関節 ）

回数	授業内容
1	ROM 測定法の目的と意義
2	ROM 肩甲帯，肩関節屈曲，伸展
3	ROM 肩関節外旋内旋，内外転，水平屈曲伸展，
4	ROM 肘関節屈曲伸展，前腕回内外
5	ROM 手関節掌屈背屈撓屈尺屈，手指（MP，PIP，DIP），
6	ROM 上肢復習，上肢確認テスト
7	ROM 股関節屈曲伸展，内外転，内外旋
8	ROM 膝関節屈曲伸展，足関節底屈背屈，足部内外転，内外返し
9	ROM 足趾（MP，PIP，DIP），頸部屈曲伸展，回旋，側屈，胸腰椎屈曲伸展，回旋，側屈
10	ROM 下肢復習，下肢確認テスト
11	上肢，下肢，体幹の復習
12	疾患別の ROM 測定法
13	ROM OSCE(上肢・体幹)
14	ROM OSCE(下肢)
15	まとめ
16	形態測定法、体力測定法における目的と意義，触診
17	形態測定法（四肢長）上肢
18	形態測定法（四肢長）下肢
19	形態測定法（四肢周径）上肢
20	形態測定法（四肢周径）下肢
21	疾患別形態測定法、体脂肪測定法
22	形態測定法まとめ（体力測定の評価）
23	形態測定 OSCE（体力測定の実際）
24	血圧，杖，車椅子使用方法
25	ROM の考察作成方法，形態測定の考察作成方法
26	ROM の考察作成方法，形態測定の考察作成方法
27	国家試験過去問題
28	試験前対策
29	定期試験
30	答案返却・解説
31	答案返却・解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 検査測定法Ⅱ（筋） ）

学科名 理学療法科

学年 1 年

1. 授業の概要

理学療法評価における徒手筋力検査法（Manual Muscle Testing:MMT）の概要と評価方法や評価の選択について学ぶ。

2. 到達目標

正しい評価方法で実施し、各疾患に対して適切な方法を用いて実施できるようになること。また、臨床実習において徒手筋力検査法の正しい選定と手法が実際に行えること。

3 授業の方法

徒手筋力検査法を使用した講義，実技を実施。その後，実技試験を実施する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 60%，実技試験 40%

5 評価の際の特記事項

定期試験については、国家試験過去問題から出題します。

6 授業時間外学習（予習・復習など）

事前に筋の起始，停止は予習・復習をしてくるように。

7 使用教材，教具

新・徒手筋力検査法原著第10版（協同医書出版社）

8 学生へのメッセージ

徒手筋力検査法に関してですが全身の筋に対する手法を学びます。そのため事前に筋の作用，起始，停止は必ず覚えておくようにしましょう。理学療法を実施上では筋へのアプローチは重要となりますので，ここから理学療法への応用ができるようになるとういのではないかと考えています。

9 教員氏名（ 川原洋一 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 理学療法科 ）

実務経験の詳細 （ 病院にて理学療法士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名(検査測定法Ⅱ (筋))

回数	授業内容
1	徒手筋力検査法の原理
2	徒手筋力検査法の妥当性と限界
3	頸筋のテスト
4	頸筋のテスト
5	体幹筋と骨盤底のテスト
6	体幹筋と骨盤底のテスト
7	肩甲帯の筋のテスト
8	肩甲帯の筋のテスト
9	上腕部の筋のテスト
10	上腕部の筋のテスト
11	肘の筋のテスト
12	手関節，手指の筋のテスト
13	体幹，上肢の復習
14	体幹，上肢の復習
15	股関節周囲筋テスト
16	股関節周囲筋テスト
17	膝周囲筋テスト
18	膝周囲筋テスト
19	足関節周囲筋テスト
20	足指の筋のテスト
21	脳神経テスト，徒手筋力検査の別法
22	機能テスト
23	股関節周囲筋復習，膝，足関節復習
24	股関節周囲筋復習，膝，足関節復習
25	全身の復習（疾患別）
26	国家試験過去問題 解答，解説
27	実技テスト フィードバック 修正・演習
28	実技テスト フィードバック 修正・演習
29	定期試験
30	答案返却，解説
31	答案返却，解説，講義総括

シラバス（授業計画書）

科目名（ 検査測定演習（認定実技試験） ）

学科名 理学療法科

学年 1年

1 授業の内容

1 年次後期の実習に向けて、検査測定の演習を行う。

2 到達目標

検査測定を正しく実施できるようになる。

3 授業の方法

実技を中心に行います。

4 成績評価方法・基準

実技試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って、事前に予習・復習をしていくこと。

7 使用教材，教具

標準理学療法学 専門分野理学療法 臨床実習とケーススタディ第3版，医学書院

8 学生へのメッセージ

臨床実習に向けて、実技を中心に実施していきます。

9 教員氏名 （ 大石勝規 ）

所 属 （ ころ医療福祉専門学校 理学療法科 ）

実務経験の詳細（ 病院にて理学療法士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 検査測定演習 ）

回数	授業内容
1	徒手筋力検査法（上肢）演習
2	徒手筋力検査法（下肢）演習
3	徒手筋力検査法（体幹）演習
4	徒手筋力検査法まとめ
5	形態測定（上肢）演習
6	形態測定（下肢）演習
7	形態測定（その他）演習
8	形態測定まとめ
9	関節可動域測定（上肢）演習
10	関節可動域測定（下肢）演習
11	関節可動域測定（体幹）演習
12	関節可動域測定まとめ
13	血圧測定演習，脈拍測定演習
14	Vital sign 測定まとめ
15	実技試験
16	フィードバック 演習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 地域リハビリテーション ）

学科名 理学療法 科

学年 1 年

1 授業の内容

地域リハビリテーションについて理解し，地域における理学療法士の役割や意義について学ぶ．

2 到達目標

地域リハビリテーションについて説明ができるようになる．

3 授業の方法

プロジェクターを利用したパワーポイントによる講義のほか，講義内容に関連する課題に対するグループワークを実施する．また，講義内容の理解度を確認するための小テストを一部行う．

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

定期試験は国家試験の問題と記述式の問題を出題します．

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業内容に応じて事前に教科書の予習・復習を行うこと．また，自分自身が地域で自立した普通の暮らしができていることについて考えてみましょう．

7 使用教材，教具

シンプル理学療法学シリーズ「地域リハビリテーション学テキスト」
改訂第3版，南江堂

8 学生へのメッセージ

地域リハビリテーションの面白さが少しでも伝わればと思っています．

9 教員氏名 （ 飯野朋彦，樋口健吾 ）

所 属 （ 飯野：介護老人保健施設にしきの里 ）

（ 樋口：西諫早病院在宅支援室 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 地域リハビリテーション ）

回数	授業内容
1	自己紹介，コミュニケーション，接遇，チームアプローチについて
2	地域リハの概念と歴史，介護保険制度，地域包括ケアシステム，ICF について
3	対人援助技術について
4	連携・協働について
5	リハビリテーションマネジメントについて
6	生活期の評価・アプローチについて
7	地域リハ概論(訪問リハビリテーションなど)
8	地域リハ概論(介護老人保健施設，通所リハビリテーション，通所介護など)
9	地域リハ概論(介護支援専門員模擬体験①)
10	地域リハ概論(介護支援専門員模擬体験②)
11	地域リハビリテーションの実際①
12	地域リハビリテーションの実際②
13	地域リハビリテーションの実際③
14	まとめ
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 地域包括ケア ）

学科名 理学療法科

学年 1年

1 授業の内容

地域包括ケアとは、「要介護状態になっても、住み慣れた地域や自宅で生活し続けたい」と望む人が、必要なサービスを受けながら、在宅で自立した生活を続けられるように地域で支えるという考え方です。この概念を講義とグループワークで学びます。

2 到達目標

- ・地域包括ケアシステムに関する知識の習得
- ・さまざまな障害予防に関する知識を身につけ、実践できる。
- ・地域のニーズを把握し、それに対処する方法を熟考できる。

3 授業の方法

講義形式とグループワーク

4 成績評価方法・基準

定期試験 70%，レポート 20%，授業態度 10%

5 評価の際の特記事項

授業態度は、積極的な質問，グループワークでの積極的参加を評価します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業で配布する資料等の予習・復習により，知識の定着を促してほしい。

7 使用教材，教具

パソコン室の使用も予定しております。

8 学生へのメッセージ

当講義ではグループワークを中心として自主的に調査しまとめ，発表するような形態を考えております。グループワークとはいえ，各々が積極的に取り組み，役割を持って協力し合うことを望みます。このような活動は臨床におけるチームアプローチと同一です。

9 教員氏名 （ 高沢浩太郎 ）

所 属 （ 真珠園療養所 ）

実務経験の詳細（ 病院，施設にて理学療法士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 地域包括ケア ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション。地域包括ケアシステムとは？
2	地域リハビリテーションとは？介護保険制度とは？体力測定と評価とは？
3	長崎の予防リハビリテーションシステムを学ぶ 一次予防，二次予防
4	高齢者（虚弱者を含む）が利用できるサービスを調べる
5	高齢者（虚弱者を含む）が利用できるサービス 発表
6	鳥取県における「あいサポート運動」解説
7	障害を知り，適切な援助法を学習する（1）
8	障害を知り，適切な援助法を学習する（2）
9	障害予防指導の実際 （転倒・腰痛・膝痛・肩関節痛） グループワーク（1）
10	障害予防指導の実際 （転倒・腰痛・膝痛・肩関節痛） グループワーク（2）
11	障害予防指導の実際 （転倒・腰痛・膝痛・肩関節痛） グループワーク（3）
12	障害予防指導の実際 （転倒・腰痛・膝痛・肩関節痛） グループワーク（4）
13	高齢者に対する障害予防指導の発表（1）
14	高齢者に対する障害予防指導の発表（2）
15	定期試験
16	答案返却，解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床実習Ⅰ ）

学科名 理学療法科

学年 1 年

1 授業の概要

病院・クリニック・施設において、実習教育者の教育のもと患者・利用者とかかわり、理学療法士の仕事・役割を主に見学を通じて学ぶ。

2 到達目標

- (1) 専門職としての適性およびふさわしい態度を身につける。
- (2) 理学療法士の仕事について理解する。

3 授業の方法

臨床実習現場にて実習を展開する。実習状況は実習教育者と連絡を取り進めていく。

4 成績評価方法

実習規定終了60％・課題・学習記録20％・実習経験シート20％

5 評価の際の特記事項

既定の実習終了で60点・課題・学習記録20％・実習経験シート20％
臨床実習教育者のコメントを考慮して学科内で評価します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

デイリーノート、実習教育者の課題など

7 使用教材，教具

特に指定なし

8 学生へのメッセージ

理学療法士としてのあるべき姿を感じ、理学療法士としての資質面と学習意欲を高める。

9 教員氏名（ 川原 洋一 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 理学療法科 ）

実務経験の詳細（ 病院にて理学療法士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床実習Ⅰ）

回数	授業内容
	【実習期間】
	1 年前期（8 月の期間で1 週間）
	【実習時間】
	1 週間 4 5 時間（実習地：8 時間× 5 日＋自宅学修：1 時間× 5 日）
	合計 1 週間 4 5 時間
	【実習場所】
	学校にて各学生を実習地に配置する

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床実習Ⅱ ）

学科名 理学療法科

学年 1 年

1 授業の概要

病院・クリニック・施設において、実習教育者の教育のもと患者・利用者とかかわり、学内で学んだ知識・技術を実践する。

2 到達目標

- (1) 専門職としての適性およびふさわしい態度を身につける。
- (2) 対象者本人および他部門からの情報収集を経験する。
- (3) 安全性とリスク管理について解説を聞き、思考過程を経験する。
- (4) 対象者に即した検査・測定方法を選択し、実施を教育者の下、経験する。
- (5) 情報収集・検査・測定の結果を適切に記録し、内容に信頼性を持たせることができるようになる。

3 授業の方法

臨床実習現場にて実習を展開する。実習状況は実習教育者と連絡を取り進めていく。なお、必要に応じて実習地に専任教員が訪問し実習状況を確認する。

4 成績評価方法

実習規定終了60%・課題・学習記録20%・実習経験シート20%

5 評価の際の特記事項

既定の実習終了で60点・課題・学習記録20%・実習経験シート20%
臨床実習教育者のコメントを考慮して学科内で評価します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

デイリーノート・実習教育者の課題・理学療法評価学・関節可動域訓練・徒手筋力検査法

7 使用教材，教具

特に指定なし

8 学生へのメッセージ

患者さんを通して、理学療法評価を行い、多職種の連携に触れることで理学療法士としてのあるべき姿を感じ、次に活かせるように学びを深めてください。

9 教員氏名（ 川原 洋一 ）

所 属 （ ところ医療福祉専門学校 理学療法科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床実習Ⅱ）

回数	授業内容
	【実習期間】
	1年後期(2月～3月の期間で3週間)
	【実習時間】
	1週間45時間(実習地:8時間×5日+自宅学修:1時間×5日)
	合計3週間135時間(45時間×3週)
	【実習場所】
	学校にて各学生を実習地に配置する